

第2期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略



令和2年3月



第1章 基本方針	2
1-1 まち・ひと・しごと創生総合戦略とは	3
1-2 第2期総合戦略について	4
1-3 目的・方針	5
1-4 全体像	7
1-5 運用	9
1-6 期間	9
第2章 基本目標	10
基本目標(1) 子どもを産み育てやすい環境を整える	11
(1)-① 現状	11
(1)-② 方針	13
(1)-③ 数値目標	15
(1)-④ 主な施策	16
基本目標(2) 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える	19
(2)-① 現状	19
(2)-② 方針	22
(2)-③ 数値目標	25
(2)-④ 主な施策	26
基本目標(3) いつまでも健幸にすごせる環境を整える	32
【健幸・地域づくり】	32
(3)-① 現状	32
(3)-② 方針	37
(3)-③ 数値目標	39
(3)-④ 主な施策	40
【地域包括ケア】	42
(3)-① 現状	42
(3)-② 方針	44
(3)-③ 数値目標	47
(3)-④ 主な施策	48
基本目標(4) 人が集い、住みたくなる環境を整える	50
(4)-① 現状	50
(4)-② 方針	56
(4)-③ 数値目標	61
(4)-④ 主な施策	62

第1章 基本方針





1-1 まち・ひと・しごと創生総合戦略とは

○ 我が国における急速な少子高齢化の進展に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を確保し、将来活力ある日本社会を維持するため、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が決定されました。総合戦略における政策の基本目標は次のとおりです。

国の 基本目標

I 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

II 地方への新しい人の流れをつくる

III 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

IV 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する



1-2 第2期総合戦略について

○ 第1期の総合戦略の枠組みは継続し、より一層充実・強化させ、新たな視点を含めて、令和元年12月に第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が決定されました。第2期総合戦略における政策の基本目標と新たな視点は次のとおりです。

国の 基本目標

- I 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
- II 地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる
- III 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- IV ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

新たな 視点

- (1) 地方へのひと・資金の流れを強化する
- (2) 新しい時代の流れを力にする
- (3) 人材を育て活かす
- (4) 民間と協働する
- (5) 誰もが活躍できる地域社会をつくる
- (6) 地域経営の視点で取り組む

第1章 基本方針



1-3 目的・方針

【高石市人口ビジョンの内容】

本市の状況

- 出生数の減少
- 高齢者の急激な増加
- 転入数の停滞

方向性

- 働きながらも子育てができる環境を整えるとともに、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める。
- いつまでも健幸にすごし、支え合いのできる地域づくりや安心・安全なまちづくりを進める。
- 子育て世代や同居近居を望む高齢世代に向けて、文教都市を始めとした魅力のPRや転入のきっかけづくりを進める。

方向性の考え方

急速な高齢化を見据えて、高齢者が社会の支え手として活躍し、いつまでも健幸にすごしていくための地域づくりや安心・安全なまちづくりが必要です。また、子育て世代が安心して子どもを産み育てるためには、就業により安定した収入を確保し、働きながらも子育てができる環境を整えることが必要です。さらに、大阪中心部へのアクセスがよく、利便性が高いまちであることに加えて、子育てしやすい環境が整った、文教都市として質の高い保育や教育が受けられるまちであることを子育て世代を中心にPRしていく必要があります。併せて、高齢者にとって孫の世話をすることが生きがいになり、働く親にとって子育ての負担軽減になるといった相互に支えあう環境づくりを進めるため、「孫と一緒に住みたい」といった子育て世代と同居近居を望む高齢世代にとっても健幸のまちづくりなど、支援を行うことが必要です。

第2期に向けて

- 転入者数の増加等一定の成果はあるものの、まだまだ課題は残されています。第2期においても、第1期のめざすべき方向性は継続し、地方創生に取り組んでいくものとします。



1-3 目的・方針

【目的・方針】

- 今後何も対策を講じない場合、高石市においても、令和27年には人口が36,807人（国立社会保障・人口問題研究所推計より）まで減少する可能性が示されています。この場合、急激な少子高齢化により、高齢世帯の支え手が不足し、また、生産年齢人口の不足により産業の衰退の可能性が高まります。
- 高石市人口ビジョンでは、人口動向等の分析を行うとともに、市内在住者、転出者、転入者を対象としたアンケート調査を行い、長期的な視野に立って、第1期の総合戦略での成果と課題を踏まえて、本市の状況とめざすべき将来の方向性を整理しました。
- 高石市総合戦略では、総合計画を始めとして、住生活基本計画や子ども・子育て支援事業計画など既存の計画を踏まえつつ、高石市人口ビジョンで明らかになった本市の状況や目指すべき将来の方向性に沿って、人口減少に歯止めをかけるとともに、活発な産業をもち、住みやすいベッドタウンとしての特性をもった、活力あるまち「たかいし」を発展させることを目的として、4つの基本目標を設定しました。
- 4つの基本目標に基づく施策では、子育て世代と高齢世代のそれぞれに向けた施策を打ち出すとともに、二・三世代同居近居支援施策をさらに充実させるなど、世代間が相互に支えあう環境づくりを進め、活力あるまちの発展をめざすとともに、高石市で生まれ育ち、これまでの高石の発展を支えていただいた方が、充実した生活を送ることはもちろんのこと、若年世代から高齢世代まで、どのライフステージでも高石市に転入した方が充実した生活を送ることができるようなまちをめざしてきました。
- 第2期の総合戦略においては、第1期の基本的な方向性は継続していくとともに、さらに新たな3つの視点から基本目標に基づく施策に取り組み、たくさんの人が集い、また、住み続けたいくなる、そして生涯にわたり活躍できるような魅力のあるまちをめざします。

第1章 基本方針



1-4 全体像

高石市人口ビジョンの方向性

働きながらも子育てができる環境を整えるとともに、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める。

いつまでも健幸にすごし、支え合いのできる地域づくりや安全・安心なまちづくりを進める。

子育て世代や同居近居を望む高齢世代に向けて、文教都市を始めとした魅力のPRや転入のきっかけづくりを進める。

高石市総合戦略の基本目標

1. 子どもを産み育てやすい環境を整える

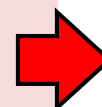
2. 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える

3. いつまでも健幸にすごせる環境を整える

4. 人が集い、住みたくなる環境を整える

高石市における新たな視点

- ◇民間活力によるまちづくりの推進
- ◇優良な地域資源の有効活用の推進
- ◇多世代での人材育成・交流の推進



くみんなが集い、住み続け、生涯活躍できる魅力あるまち たかいし く

第1章 基本方針



1-4 全体像

高石市総合戦略の基本目標

1. 子どもを産み育てやすい環境を整える

【数値目標】

出生数
20歳から39歳までの転出者数

2. 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える

【数値目標】

市内就業者数
市内企業従業者数

3. いつまでも健幸にすごせる環境を整える

【数値目標】

健康寿命
医療・介護連携による連携数

4. 人が集い、住みたくなる環境を整える

【数値目標】

20歳から39歳までの転入者数
60歳以上の転入者数

高石市総合戦略の主な施策

○妊娠・出産から子育て期における切れ目ない支援の充実 ○結婚のための出会いの機会創出 ○子育てウェルカムステーション「HUGOOD（ハグッド）」の更なる活用 ○放課後児童健全育成事業の充実

（関連施策）○地域資源のリノベーション ○子育て世帯への住宅支援 ○駅周辺リノベーション活性化事業

○地域資源のリノベーション ○専門性を身につけるための資格取得支援 ○市内企業と就職希望者のマッチング支援 ○企業立地等促進制度の推進 ○創業支援 ○健康経営の促進 ○人材バンクの活用

（関連施策）○放課後児童健全育成事業の充実 ○二・三世代同居近居支援 ○市内企業従業者への住宅支援 ○駅周辺リノベーション活性化事業

○健幸づくり事業の充実 ○高齢者も暮らしやすいまちづくりの推進 ○在宅医療介護連携の推進 ○コミュニティカフェの整備

（関連施策）○地域資源のリノベーション ○創業支援 ○健康経営の促進 ○人材バンクの活用 ○二・三世代同居近居支援 ○駅周辺リノベーション活性化事業

○学力向上に向けた学びの推進 ○英語教育の推進 ○地域活性化ブランド戦略による魅力の発信・発信の強化 ○関西国際空港を拠点とした広域的なPRの取組みの推進 ○海辺の地域活性化事業 ○空家バンク制度の利用促進 ○二・三世代同居近居支援 ○子育て世帯への住宅支援 ○市内企業従業者への住宅支援 ○安全・安心なまちづくりの推進 ○駅周辺リノベーション活性化事業

（関連施策）○妊娠・出産から子育て期における切れ目ない支援の充実 ○結婚のための出会いの機会創出 ○子育てウェルカムステーション「HUGOOD（ハグッド）」の更なる活用 ○放課後児童健全育成事業の充実 ○地域資源のリノベーション



1－5 運用

毎年度、PDCAサイクルによる施策等の検証を行い、行政計画審議会に報告し、意見をいただくこととします。また、時点修正など必要に応じて総合戦略を見直します。

1－6 期間

計画期間は令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

第2章 基本目標



第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ①現状 ―

○ 出産・子育ての中心となる20歳代・30歳代が転入傾向ではありますが、総数を見ると転入数は停滞しております。

高石市

	人口の総数	総転出数	総転入数	純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	4,871	204	242	38	4.2%	5.0%	0.8%
10歳～19歳	5,963	122	146	24	2.0%	2.4%	0.4%
20歳～29歳	5,802	680	718	38	11.7%	12.4%	0.7%
30歳～39歳	6,332	451	497	46	7.1%	7.8%	0.7%
40歳～49歳	9,100	276	264	▲12	3.0%	2.9%	▲0.1%
50歳～59歳	7,121	141	140	▲1	2.0%	2.0%	▲0.0%
60歳以上	18,743	196	207	11	1.0%	1.1%	0.1%

	男性人口	男性の転出数	男性の転入数	男性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	2,460	103	114	11	4.2%	4.6%	0.4%
10歳～19歳	2,984	52	85	33	1.7%	2.8%	1.1%
20歳～29歳	3,034	379	385	6	12.5%	12.7%	0.2%
30歳～39歳	3,160	251	280	29	7.9%	8.9%	0.9%
40歳～49歳	4,463	148	134	▲14	3.3%	3.0%	▲0.3%
50歳～59歳	3,485	79	77	▲2	2.3%	2.2%	▲0.1%
60歳以上	8,153	89	95	6	1.1%	1.2%	0.1%

	女性人口	女性の転出数	女性の転入数	女性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	2,411	101	128	27	4.2%	5.3%	1.1%
10歳～19歳	2,979	70	61	▲9	2.3%	2.0%	▲0.3%
20歳～29歳	2,768	301	333	32	10.9%	12.0%	1.2%
30歳～39歳	3,172	200	217	17	6.3%	6.8%	0.5%
40歳～49歳	4,637	128	130	2	2.8%	2.8%	0.0%
50歳～59歳	3,636	62	63	1	1.7%	1.7%	0.0%
60歳以上	10,590	107	112	5	1.0%	1.1%	0.0%

大阪府

	人口の総数	総転出数	総転入数	純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	715,310	33,804	31,612	▲2,192	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	810,258	20,611	22,595	1,984	2.5%	2.8%	0.2%
20歳～29歳	945,996	143,972	150,298	6,326	15.2%	15.9%	0.7%
30歳～39歳	1,065,982	91,793	89,361	▲2,432	8.6%	8.4%	▲0.2%
40歳～49歳	1,410,380	44,267	44,298	31	3.1%	3.1%	0.0%
50歳～59歳	1,090,630	24,793	24,722	▲71	2.3%	2.3%	▲0.0%
60歳以上	2,817,863	38,540	37,282	▲1,258	1.4%	1.3%	▲0.0%

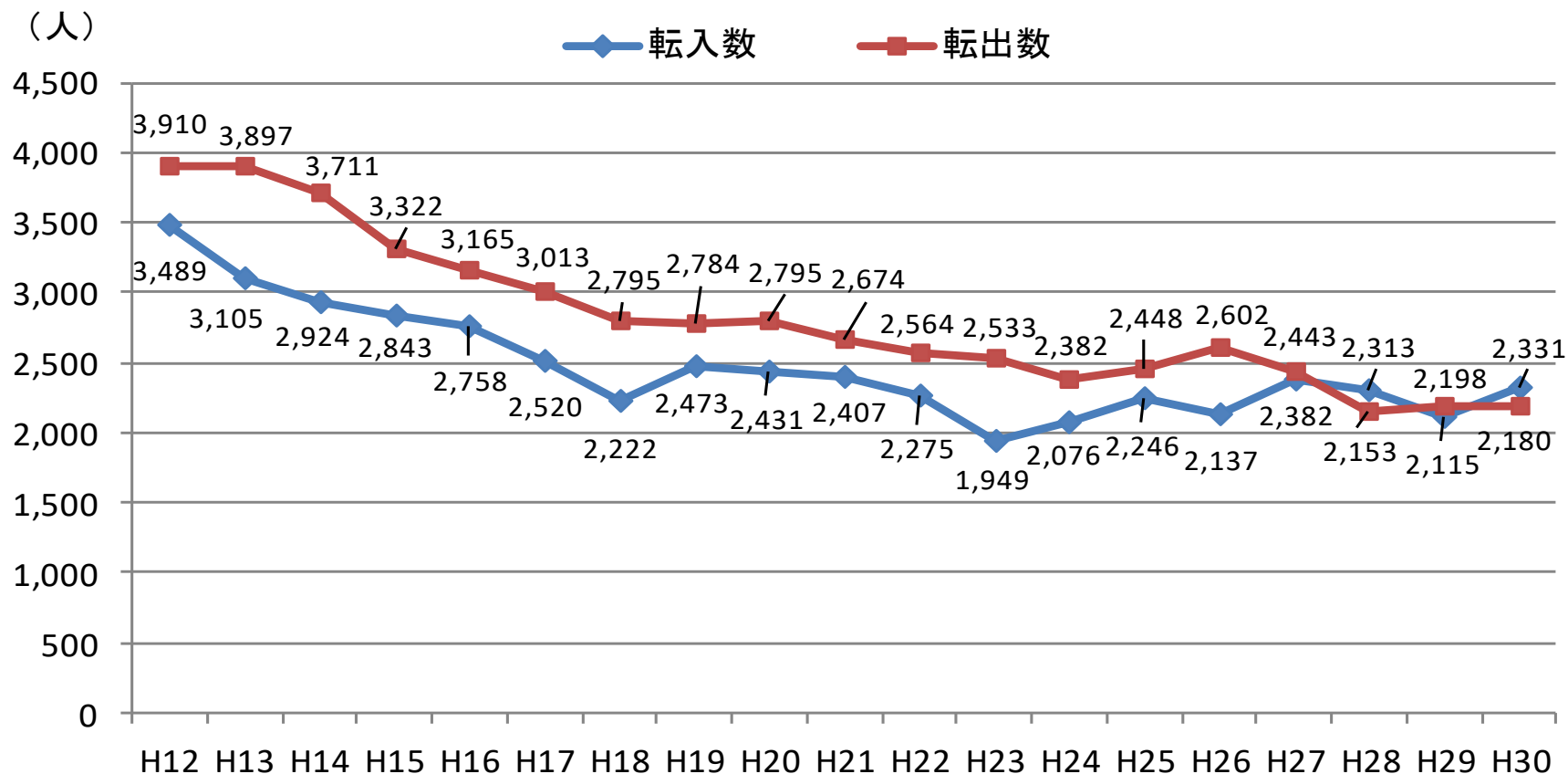
	男性人口	男性の転出数	男性の転入数	男性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	366,324	17,282	16,093	▲1,189	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	414,169	10,678	11,542	864	2.6%	2.8%	0.2%
20歳～29歳	473,633	74,856	75,430	574	15.8%	15.9%	0.1%
30歳～39歳	530,668	49,147	47,848	▲1,299	9.3%	9.0%	▲0.2%
40歳～49歳	702,284	25,122	25,103	▲19	3.6%	3.6%	▲0.0%
50歳～59歳	542,235	14,153	14,236	83	2.6%	2.6%	0.0%
60歳以上	1,249,025	17,528	16,812	▲716	1.4%	1.3%	▲0.1%

	女性人口	女性の転出数	女性の転入数	女性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	348,986	16,522	15,519	▲1,003	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	396,089	9,933	11,053	1,120	2.5%	2.8%	0.3%
20歳～29歳	472,363	69,116	74,868	5,752	14.6%	15.8%	1.2%
30歳～39歳	535,314	42,646	41,513	▲1,133	8.0%	7.8%	▲0.2%
40歳～49歳	708,096	19,145	19,195	50	2.7%	2.7%	0.0%
50歳～59歳	548,395	10,640	10,486	▲154	1.9%	1.9%	▲0.0%
60歳以上	1,568,838	21,012	20,470	▲542	1.3%	1.3%	▲0.0%

第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ①現状 ―



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

第2章 基本目標



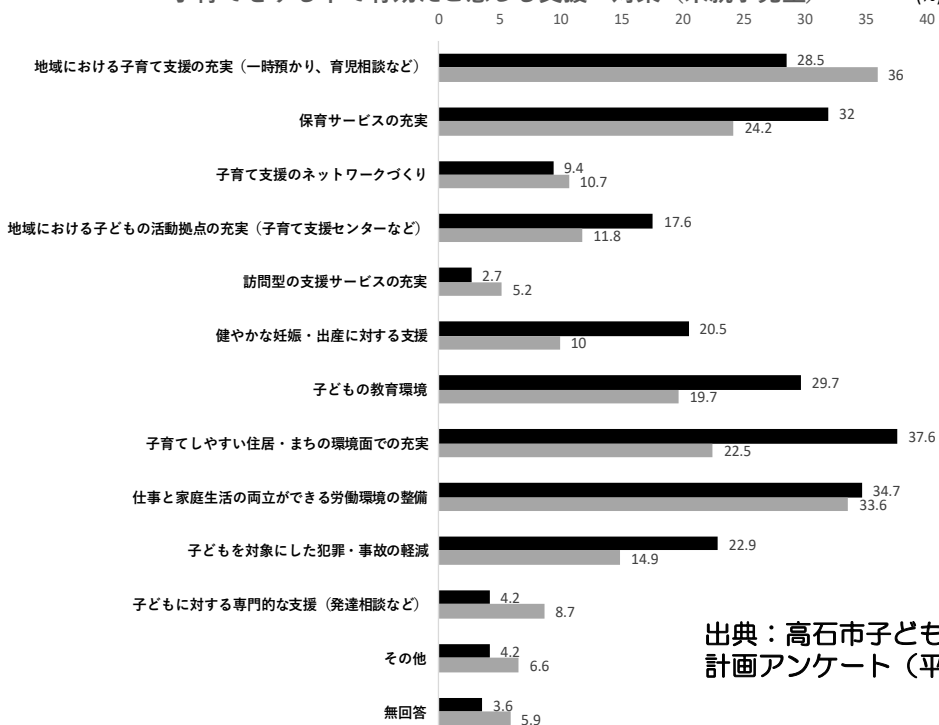
基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ②方針 ―

○ 出産・子育ての多様なニーズに対応する

保育サービスの量的な確保に加え、働きながら子育てをする親が子どもを預けやすい環境の整備や学童保育の充実などを実施してまいりましたが、子育て支援の更なる推進に今後も取り組んでまいります。また、産前・産後の負担を軽減し、安心して出産できるための支援を行います。

子育てをする中で有効だと感じる支援・対策（未就学児童）

(%)



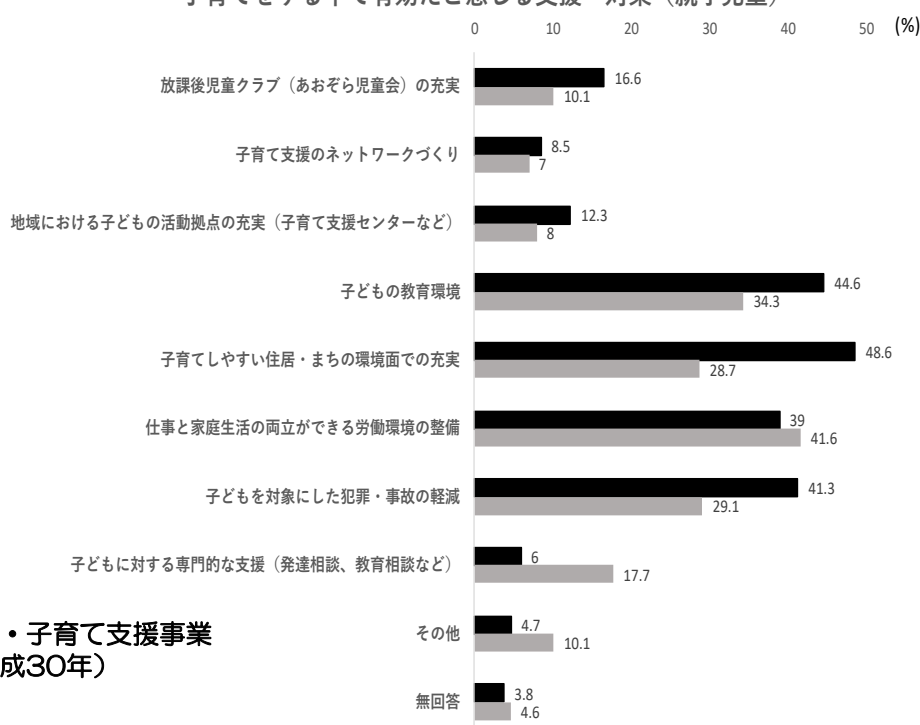
N=659

N=289

■子育てを「楽しいと感じる」方 ■子育てを「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」「つらいと感じる」方

子育てをする中で有効だと感じる支援・対策（就学児童）

(%)



N=634

N=327

■子育てを「楽しいと感じる」方 ■子育てを「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」「つらいと感じる」方

出典：高石市子ども・子育て支援事業
計画アンケート（平成30年）

第2章 基本目標



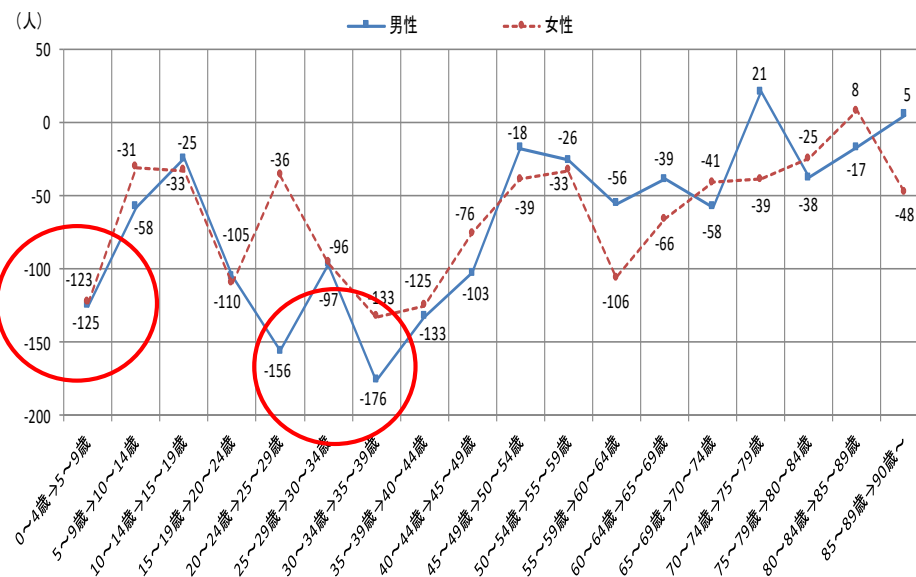
基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ②方針 ―



子育てウェルカムステーション
「HUGOOD（ハグッド）」



性別・年齢階級別純移動数の状況
〔平成22（2010）年～平成27（2015）年〕



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える — ③数値目標 —

数値目標１：出生数 平成30年度：414人 ⇒ 令和6年度：600人
※住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

数値目標２：20歳から39歳までの転出者数
平成30年度：1,100人 ⇒ 令和6年度：1,000人
※住民基本台帳人口移動報告



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える — ④主な施策 —

○ 妊娠・出産から子育て期における切れ目ない支援の充実

妊娠・出産から子育て期における支援のワンストップ化を図るため、子育て世代包括支援センターにおいて、妊産婦・乳幼児等の状況を継続・包括的に把握し、様々な相談に応じるとともに医療機関・児童相談所等の関係機関と連携しながら、妊娠・出産・子育てにおける切れ目のない支援を行います。

K P I：支援の満足度

令和6年度：90%

※K P I（Key Performance Indicator）：

重要業績評価指標。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のこと。

○ 結婚のための出会いの機会創出

結婚のための出会いの機会創出のため、民間事業者が実施する出会いの場の提供やセミナーへの補助・支援などを実施します。

K P I：結婚につながる出会いの機会に関するイベント等への参加者数

令和2年度から令和6年度まで：各年度60人



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 子育てウェルカムステーション「HUGOOD（ハグッド）」の更なる活用

第1期の総合戦略において、アプラたかいしに子育てウェルカムステーションとしてハグッドを開設し、年間約5万人にご利用いただくなど成果をあげています。第2期においては、同施設においてイベントの開催などにあわせて、育児相談や就労支援を行うなど、更なる施設の活用を促していくことで、定住促進を図ります。

K P I：市外の利用者が高石市に住みやすそうと感じた割合（％）

令和6年度：80％

市内の利用者が高石市に住み続けたいと感じた割合（％）

令和6年度：80％



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える — ④主な施策 —

○ 放課後児童健全育成事業の充実

保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に、遊びや生活の場を提供して、児童の安全と心身の健全な育成を図ります。

K P I：放課後児童クラブ（あおぞら児童会）の待機児童数
令和6年度：0人

【基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整えるに関連する施策】

- 地域資源のリノベーション（基本目標（２） P26 記載事業）
- 子育て世帯への住宅支援（基本目標（４） P67 記載事業）
- 駅周辺リノベーション活性化事業（基本目標（４） P69 記載事業）

第2章 基本目標

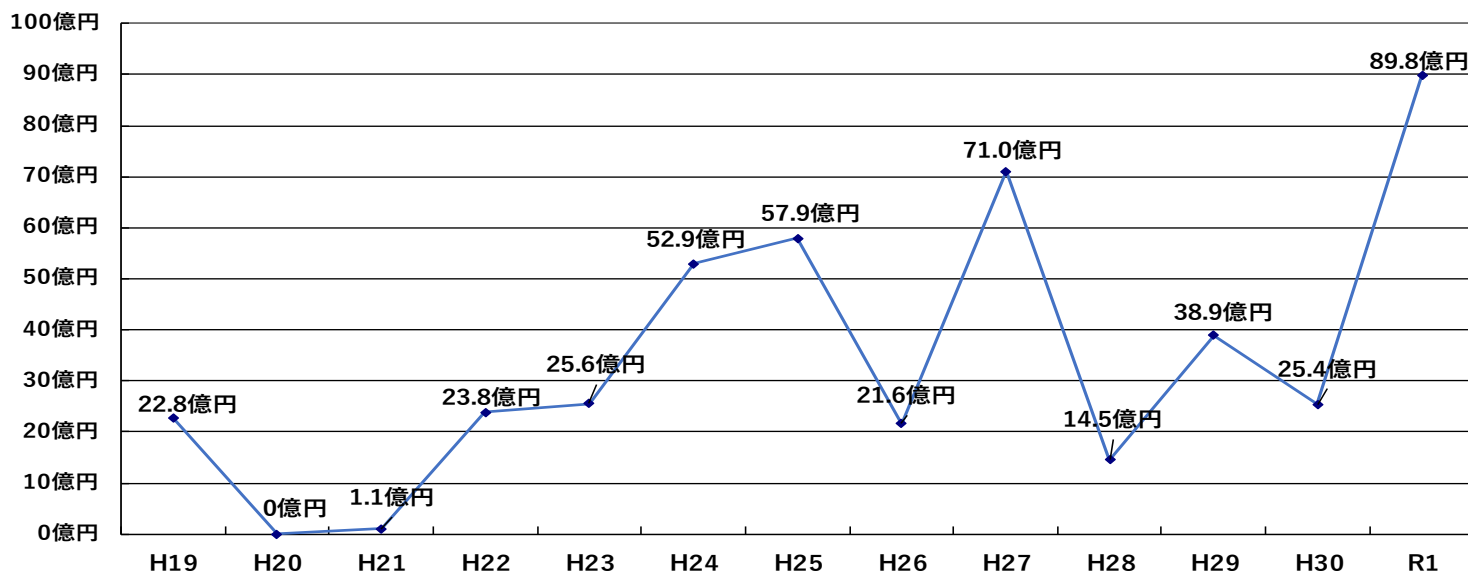


基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える ― ①現状 ―

- 高石市には、臨海部に大手企業を含む多くの企業が集積しており、高石市企業立地等促進制度による設備投資の申請も増え続けています。

企業立地等促進制度の年度別投資申請額

※高石市への申請状況より作成（令和元年12月末時点）



企業数・事業所数・従業者数

出典：RESAS地域経済分析システム

企業数

単位：数

平成24年	平成26年	平成28年
1,689	1,630	1,520

事業所数

単位：数

平成24年	平成26年	平成28年
2,204	2,156	2,036

従業者数

単位：人

平成24年	平成26年	平成28年
19,273	19,303	18,889

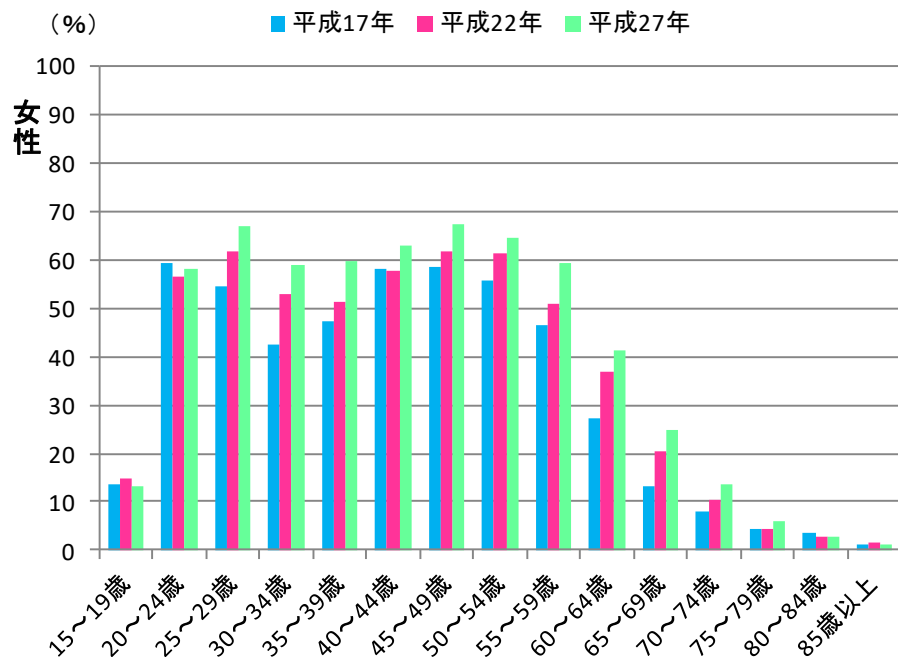
第2章 基本目標



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える ― ①現状 ―

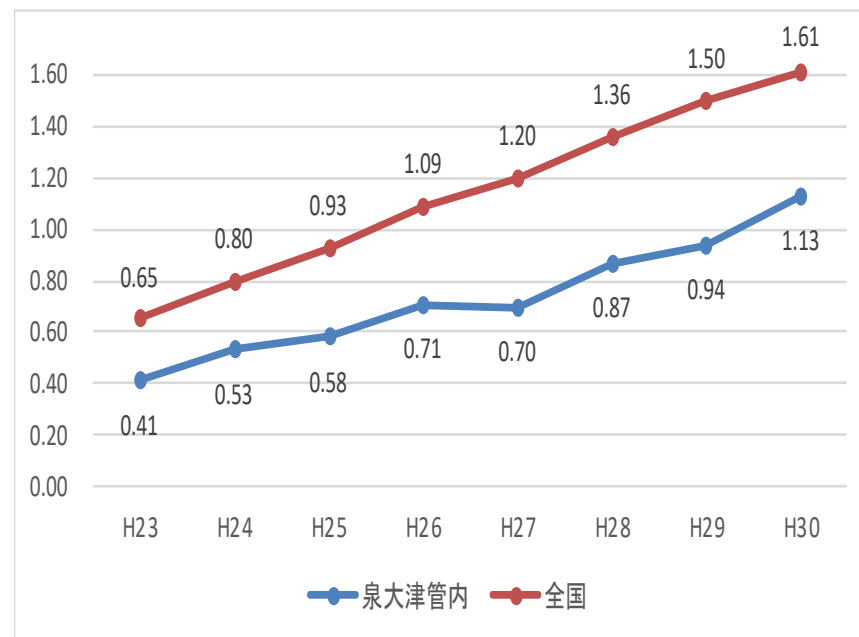
- 25歳以上の女性の就業率は年々上昇傾向にありますが、本市を含むハローワーク泉大津管内における有効求人倍率は、全国と比較しても低くなっています。

女性の年齢別就業率の推移



出典：総務省「国勢調査」

高石市を含むハローワーク泉大津管内の有効求人倍率の推移



出典：ハローワーク泉大津

第2章 基本目標

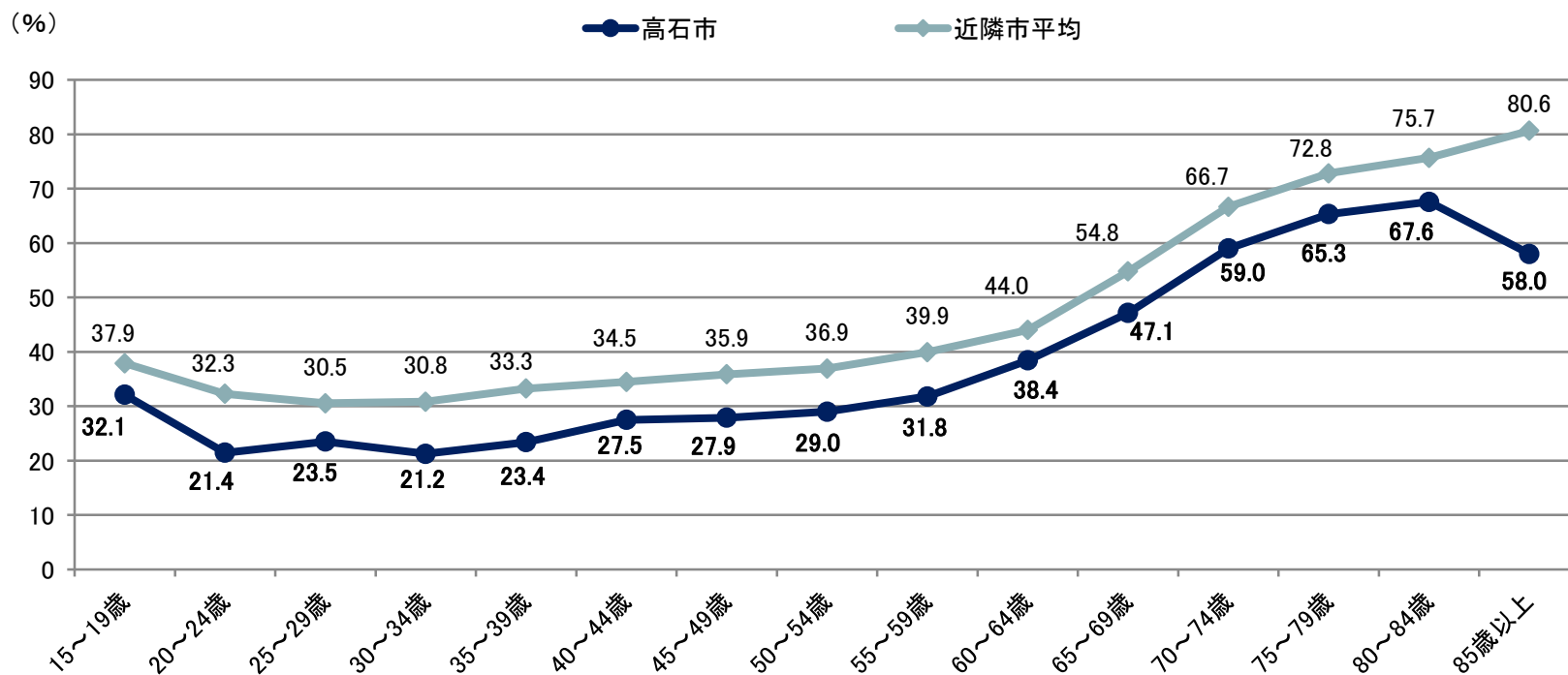


基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える ― ①現状 ―

○ 臨海部を中心とした市内企業には、市外からも多くの方が通勤しています。

自市内従業者割合数（泉州市比較）

自市内就業者割合＝「自宅で就業」「自宅外の自市で就業」の計÷自市内在住の就業者の総数



出典：総務省「平成27年国勢調査」より作成

第2章 基本目標



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える ― ②方針 ―

○ 働きながら子育てができる環境を整備する

女性の就業率の向上を踏まえ、働きながら子育てができる環境を整備します。このため、多様なニーズに対応し、特に働きながら子育てをする親にとっての利便性を向上するための保育サービス等の充実を図ります。

		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
男性	就業者数（人）	20,521	17,470	16,167	14,885	14,130
	就業率（％）	69.8	69.4	65.8	62.2	61.5
女性	就業者数（人）	11,783	10,562	10,648	10,348	10,561
	就業率（％）	36.3	38.8	39.3	38.7	40.9
総数	就業者数（人）	32,304	28,032	26,815	25,233	24,691
	就業率（％）	52.2	53.5	51.9	49.8	50.6

出典：総務省「国勢調査」



第2章 基本目標



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える ― ②方針 ―

○ 就職しやすい環境を整える

就職機会の確保という観点から、求人ニーズとのマッチングができるよう、特に市内企業が求める人材の育成や、企業と就職希望者が接する機会の確保、市内企業の求人情報の紹介などの支援に取組みます。



高石市からのお知らせ

資格取得支援

講座受講料、受験料の一部を市が補助します！

最大 5万円 補助

補助金の額は？

資格取得に必要な講習等の受講料（入学金、教材費含む）、受験料で、限度額 50,000円 です。

※資格登録料、不合格となった受験料、受講に当たり必須ではない補講料等は除きます。

対象となる人は？

以下の全ての条件を満たす方です。

- ◆高石市内在住で、今後も引き続き市内に居住する意思のある方。
- ◆未就労・非正規雇用で、就職するために資格を取得しようとする方 ※ただし学生は除きます。
- ◆他の補助金等の交付を受けていない方

どんな資格が対象？

◆就職に有利になる資格又は免許。

介護職員 初任者研修

簿記・医療事務

※ただし、一部の運転免許や趣味的・教養的と判断される資格、免許等は除きます。必ず受講前にご相談ください。

※予算に達した時点で、受付を終了します。

※講座受講や資格取得の前に事前相談が必要です。

【相談窓口・お問合せ先】

高石市経済課労働政策係 高石市加茂4丁目1番1号
電話：072-275-6149 FAX：072-263-8143
ホームページのご案内：[高石市求職者資格取得支援補助金] で検索



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える ― ②方針 ―

○ 市内企業の活性化を支援する

市内企業が活性化し、求人ニーズが増えるよう、生産性の向上やストックポイントの確保を目的とした設備投資に関する支援など、企業支援にも取り組みます。

○ 地域資源を有効活用する

市内の空き家・空きスペース等の地域資源を有効活用し、多世代での交流を促進するコミュニティスペースとして整備するだけでなく、まちに賑わいと雇用を創出するため、民間事業者が起業できるよう人材育成などの支援に取り組みます。





基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える — ③数値目標 —

数値目標1：市内就業者数 平成27年度：24,691人
⇒ 令和6年度：25,500人 ※国勢調査

数値目標2：市内企業従業者数 平成28年度：18,889人
⇒ 令和6年度：19,500人
※経済センサス活動調査



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 地域資源のリノベーション

旧保健センターや野外活動センター等既存の公共施設は、高齢者なども含めて集い、賑わいを創出できる収益施設を兼ねたコミュニティスペースやスポーツ活動の拠点等として整備します。また、市内の民間の所有するストック等も活用するべく民間と行政、不動産オーナー等の仲介役となりエリアマネジメントを実施する「（仮称）高石市公民連携推進協議会」を立ち上げる等、地域資源の有効活用を促進します。

K P I：本事業及び波及効果による既存ストックのまちづくり活用件数
令和6年度：11件 ※令和2年度から令和6年度までの累積



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 専門性を身につけるための資格取得支援

市内企業における実務経験者や専門的な技術・資格を有する者の雇用ニーズを踏まえ、就職に有利な資格取得等について支援を行います。

K P I：資格取得支援制度の利用者数

令和2年度から令和6年度まで：各年度20人

○ 市内企業と就職希望者のマッチング支援

就職希望者と接する機会を求める市内企業のニーズを踏まえ、様々な形式で、企業と労働者の雇用マッチング事業を実施します。

K P I：事業を通じた就職者数

令和2年度から令和6年度まで：各年度10人

事業の参加者数

令和2年度から令和6年度まで：各年度100人



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える — ④主な施策 —

○ 企業立地等促進制度の推進

設備投資に対する市税の優遇制度である高石市企業立地等促進条例は、平成19年に導入以降、令和元年までの投資申請額が約450億円、うち災害対策設備は約45億円の申請をいただき、安全で安心と働きやすい環境作りを支援し、成果をあげてまいりました。

今後も、日本経済の産業構造の変化に対応しつつ、企業の積極的な設備投資意欲に応えるため、コンビナートの充実及び再構築に向け、企業立地等促進制度のさらなる延長と利用拡大を図ります。

K P I：企業立地等促進制度申請件数

令和2年度から令和6年度まで：各年度7件

企業立地等促進制度による認定事業者の市民雇用者数

令和2年度から令和6年度まで：各年度3人



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える — ④主な施策 —

○ 創業支援

① 創業者等の育成支援

商工会議所や市内の金融機関と連携し、市内で新規に創業する方への支援の充実を図ります。さらに、市内の民間の所有するストック等を活用し、リノベーションまちづくりの専門家と創業・起業希望者等で物件見学や実践的な短期講座を開催し、不動産オーナーへ事業プランの提案を行い事業化をめざすと同時に、創業者等の育成・支援を行います。

K P I : 創業件数

令和6年度：18件

リノベーションスクール等の勉強会や地域創生人材支援講座等の参加者数

令和6年度：40人



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える — ④主な施策 —

② 健幸リビング・ラボの付加価値の向上

健幸づくりの取り組みを活かし、ヘルスケア産業を創出するため、市民との協働での商品・サービス開発を支援します。さらには、健幸リビング・ラボを他自治体と連携して広域で取り組むことにより、より多くのモニターを確保し、健幸リビング・ラボの付加価値を高めます。

KPI：健幸モニター登録者数

令和2年度から令和6年度まで：各年度200人

○ 健康経営の促進

市の健幸づくり事業と民間企業の保健事業について協議の場を設け、連携を図ることにより、健康経営を促進します。

KPI：健幸のまちづくり協議会参加団体数

平成30年度：104団体 ⇒ 令和6年度：190団体

※健康経営：

「企業が従業員の健康に配慮することによって、経営面においても大きな成果が期待できる」との基盤に立って、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること。



基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える — ④主な施策 —

○ 人材バンクの活用

退職した高齢者の多様な生きがいを進めるため、今後も行政も含めて、専門人材を求める企業等やまちづくりなどに貢献したい方々を支援するために、人材バンクを活用します。

KPI：人材バンクにおけるマッチング数

令和2年度から令和6年度まで：各年度20件

【基本目標（2） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整えるに関連する施策】

- 放課後児童健全育成事業の充実（基本目標（1）P18 記載事業）
- 二・三世代同居・近居支援（基本目標（4）P66 記載事業）
- 市内企業従業者への住宅支援（基本目標（4）P67 記載事業）
- 駅周辺リノベーション活性化事業（基本目標（4）P69 記載事業）

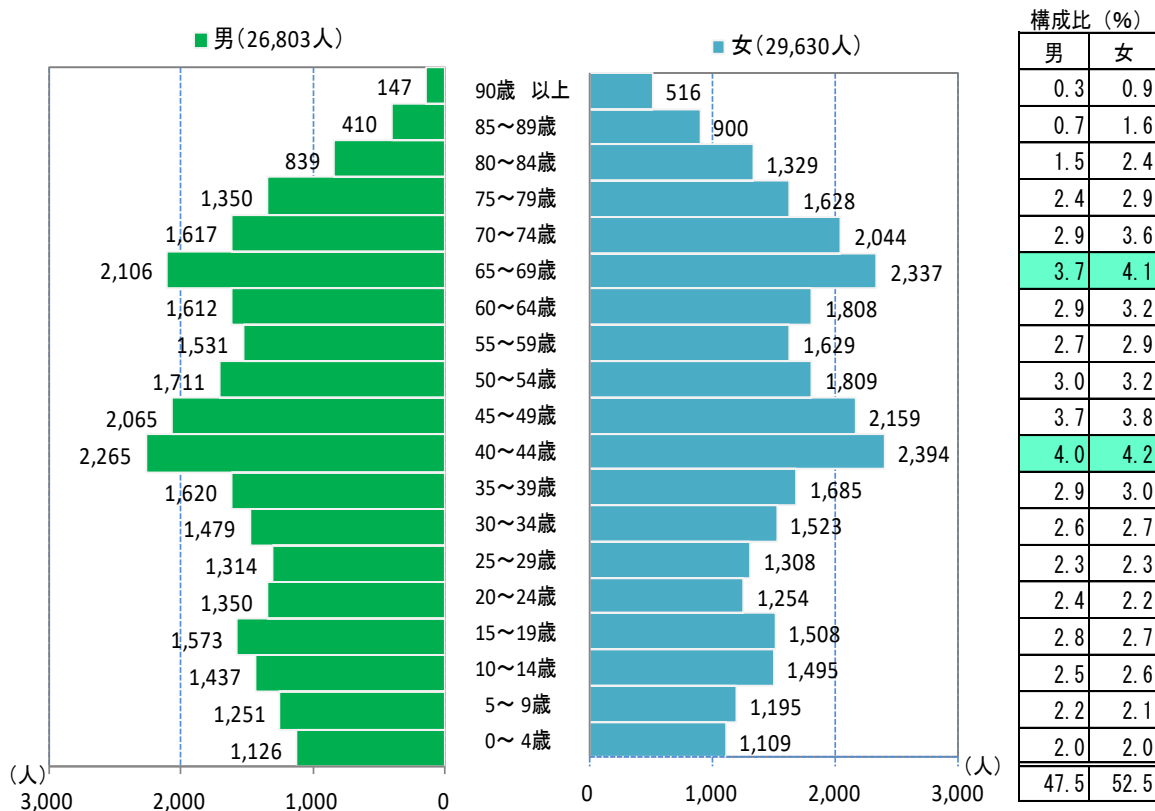
第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

- 高石市の人口構造においても、団塊の世代や団塊ジュニア世代の層が厚く、近い将来に高齢者が急激に増加することが確実となっています。このため、高齢者が安心して住みよい生活ができるまちづくりが必要となります。

高石市の人口ピラミッド（平成27年）



出典：総務省「国勢調査」

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

- 本市は先進的なスマートウェルネスシティとして、健幸づくりに係る取組みを進めてきており、健幸づくり教室、ウォーキング等の拠点が整備され、健幸づくりに取り組める環境の整備を推進しております。



第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

- 本市では、スマートウェルネスシティとして、都市基盤整備においても健幸づくりに主眼を置いた整備を進めてきており、南海中央線を2車線にし、自転車道やせせらぎによる「歩きたくなる」環境の整備などの取組みを行ってきています。

高石市健幸まちづくりマップ



第2章 基本目標



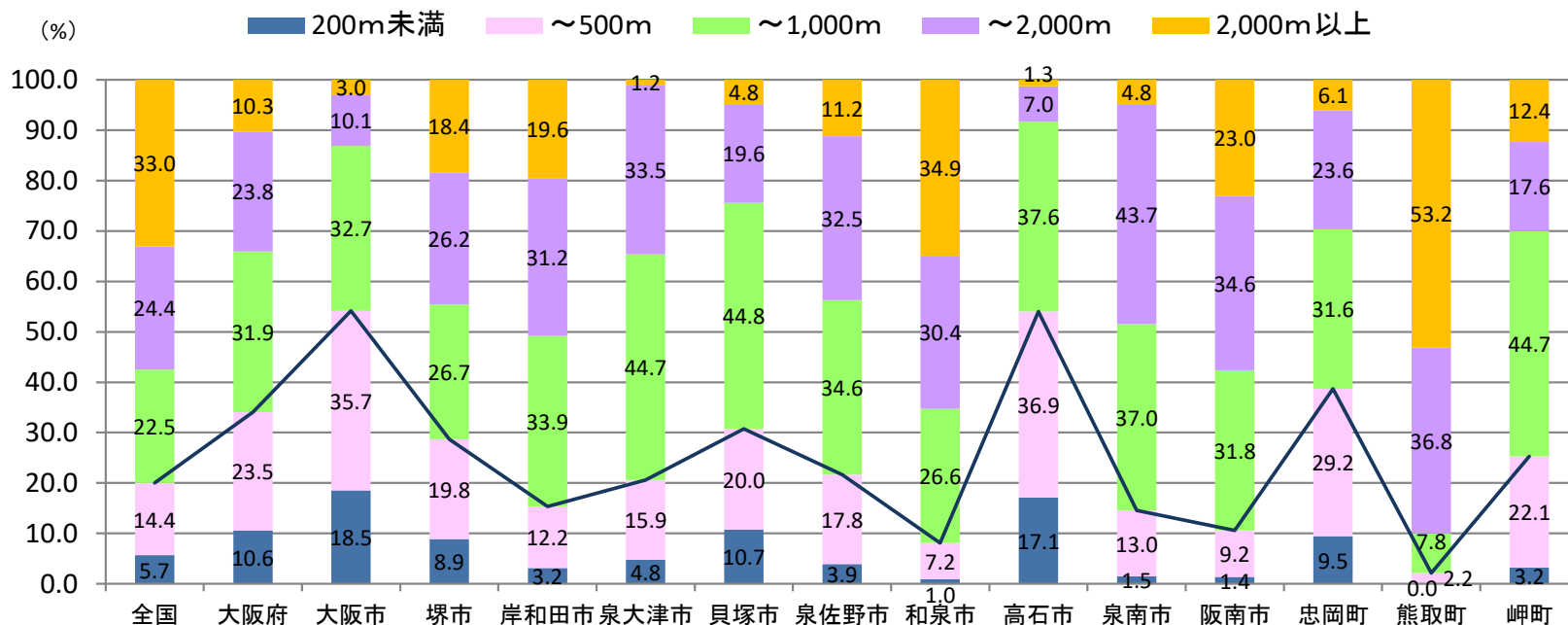
基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

- 高石市での暮らしについてアンケートでは、住む場所を考える際に重視する点として、「交通の便が良いこと」が最も高位となっています。高石市は市域に南海電鉄とJRの6つの鉄道駅を有し、国道26号など主要幹線道路が整備されているなど、南北の交通はかなり充実していることに比べると、東西の交通は充実の余地を残しているといえます。

最寄り駅までの距離（近隣市町比較）

— 500m未満の割合

出典：総務省「住宅・土地統計調査」
(平成25年)



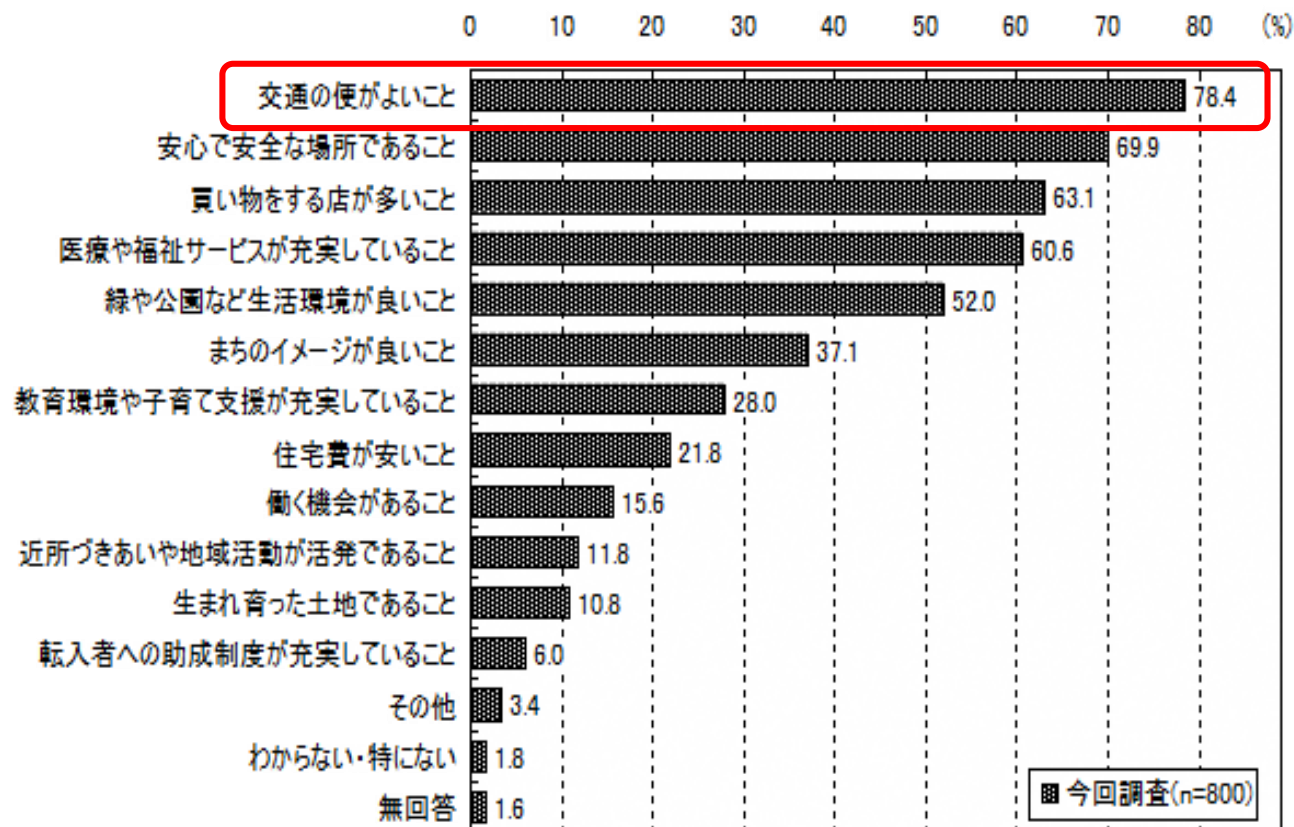
第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

高石市での暮らしについてのアンケートの結果

住む場所を考える際にどのようなことを重視されますか。
（あてはまるすべてに○印）

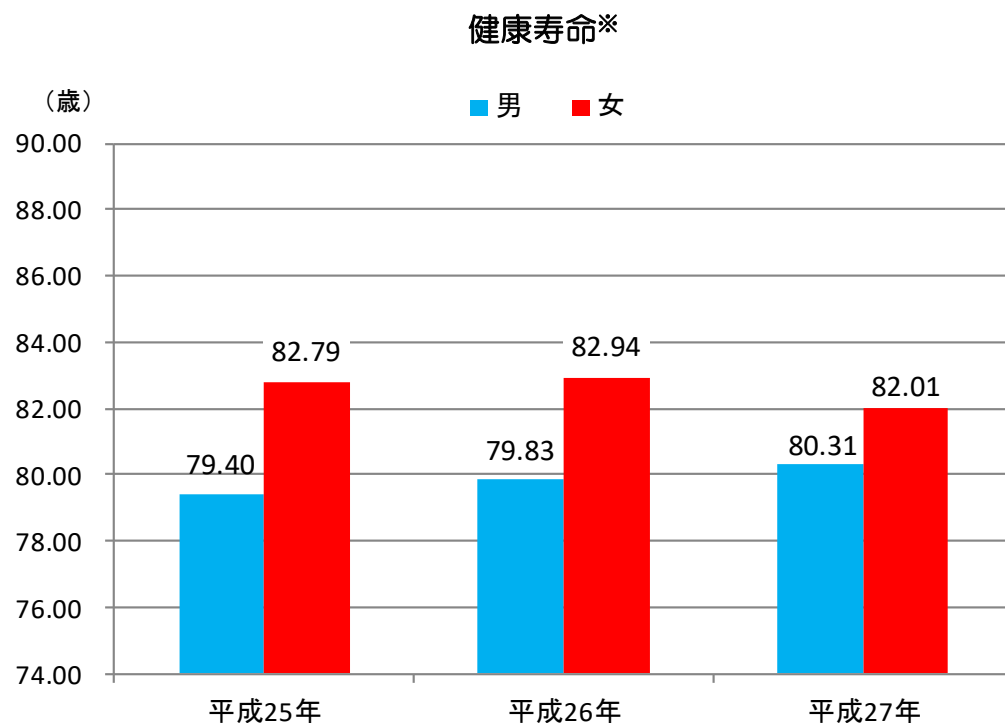




基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ②方針 －

○ いつまでも健幸で、高齢者が社会で活躍できるまちづくりを推進する

今後の高齢人口の増加や支え手となる生産年齢人口の減少を見据え、高齢者もできる限り長く社会の支え手として活躍し、互いに支え合うことのできる地域づくりを進めます。



※健康な状態を「日常生活動作が自立していること」と規定し、介護保険の要介護度の要介護2～5を不健康な状態、それ以外を健康な状態という条件のもと算定したもの。

【参考出典】
平成29年12月厚生労働科学研究の健康寿命計算プログラムを用いて算出



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ②方針 －

○ 健幸づくりを推進する

高齢者がいつまでも元気で、健幸を維持しながら、様々な地域コミュニティを形成していくため、健幸づくり事業の広域化等さらなる充実・発展に向けた取組みを進めます。

○ 高齢者が出かけやすいまちづくりを推進する

スマートウェルネスシティとしてのこれまでの取組みを踏まえつつ、今後さらに高齢化が進展しても高齢者が出かけやすいまちづくりとして、南海中央線の延伸や駅舎のバリアフリー化を進めます。また、鉄道沿線の自治体で都市機能を分担・連携し、公共交通サービスや住民の利便性の維持・向上を目的とする「鉄道沿線まちづくり」も勘案しながら、都市基盤整備や公共交通の充実を図ります。



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ③数値目標 －

数値目標 1：健康寿命※

男性：平成27年度：80.31歳 ⇒ 令和6年度：82歳

女性：平成27年度：82.01歳 ⇒ 令和6年度：84歳

※健康な状態を「日常生活動作が自立していること」と規定し、介護保険の要介護度の要介護2～5を不健康な状態、それ以外を健康な状態という条件のもと算定したもの。

【参考出典】

平成29年12月厚生労働科学研究の健康寿命計算プログラムを用いて算出



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ④主な施策 －

○ 健幸づくり事業の充実

高石市では、スマートウエルネスシティとしての取組みを先進的に行ってきています。今まで高石市において、健康施策に積極的に取り組んできた背景も踏まえながら、若い世代から高齢者世代まであらゆる層が健幸づくりを介して交流ができるような土台を整えます。そのための手段として、現在まで実施してきた健幸ポイント事業を引き続き行うことにより、健幸のみならず、多世代交流が可能となる場に参加者を誘導する仕掛けづくりを行うことにより、あらゆる世代が生きがいをもてる「全世代型活躍のまち」をめざします。

KPI：健幸ウォーキング参加者数

平成30年度：44,263人 ⇒ 令和6年度：50,000人 ※延べ人数

健幸づくり教室参加者数

平成30年度：3,269人 ⇒ 令和6年度：3,800人 ※延べ人数

健幸ポイント事業参加者数

平成30年度：2,993人 ⇒ 令和6年度：4,000人

医療・介護給付費の抑制額

令和6年度：2億2,600万円

80～90歳代の健幸ポイント事業参加者数

令和6年度：600人

健幸ポイント事業のボランティア数（健幸アンバサダー等の活躍人数）

令和6年度：800人



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ④主な施策－

○ 高齢者も暮らしやすいまちづくりの推進

市内に鉄道駅が6つあるなど公共交通機関が整備されている強みを活かして、鉄道沿線まちづくりの考え方も踏まえつつ、高齢者も気軽に外出できるよう、交通利便性の向上を図ります。

K P I：具体施策が決定後、K P Iを設定

【基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）に関連する施策】

- 地域資源のリノベーション（基本目標（2）P26 記載事業）
- 創業支援（基本目標（2）P29 記載事業）
- 健康経営の促進（基本目標（2）P30 記載事業）
- 駅周辺リノベーション活性化事業（基本目標（4）P69 記載事業）

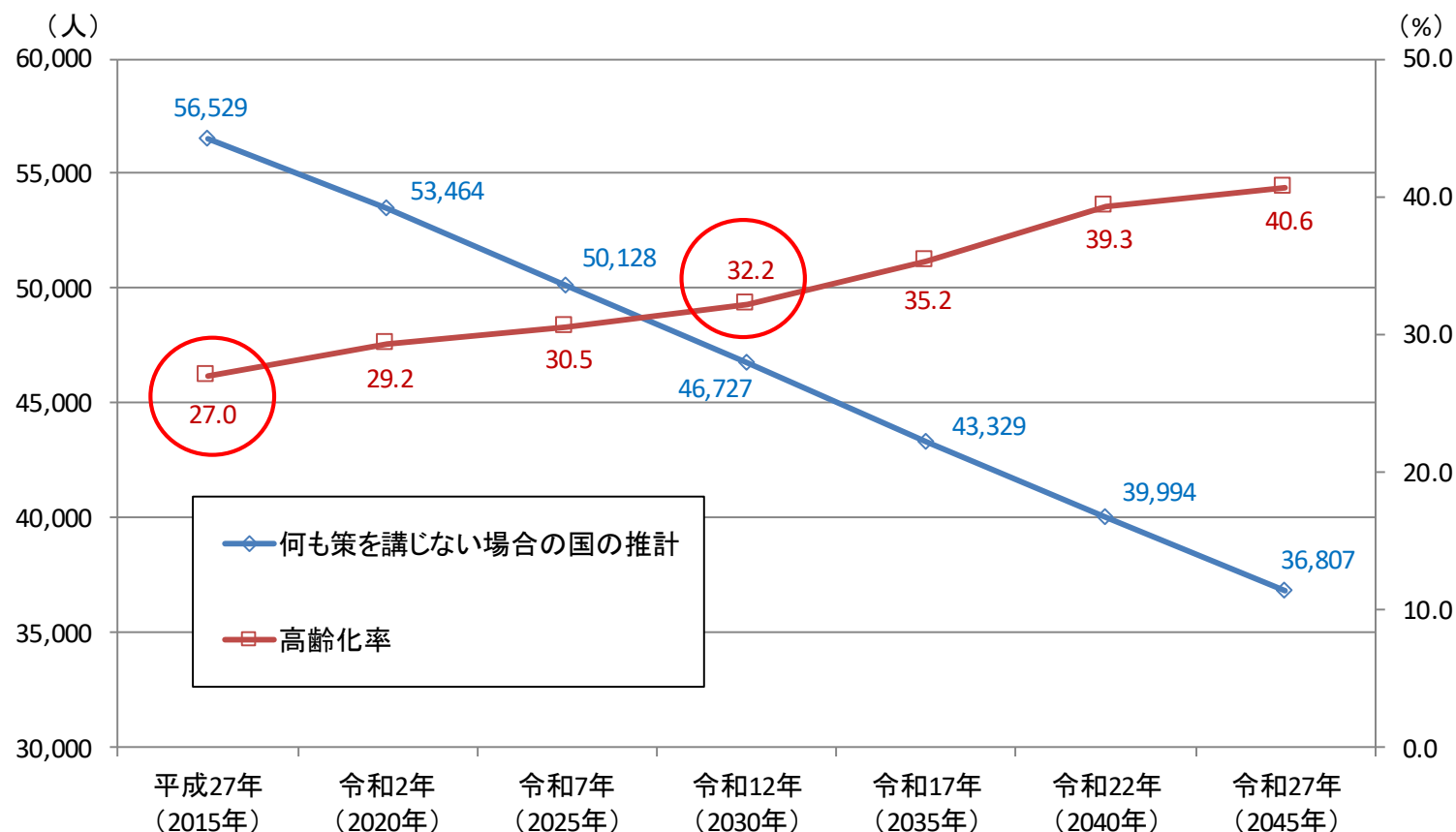
第2章 基本目標

高石市の高齢化率



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ①現状 －

- 高石市の高齢化率は平成27年度で27.0%ですが、医療介護の需要がピークに達するといわれる令和12年度には32.2%になることが見込まれています。



第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ①現状 －

- 地域のコミュニティづくりのため、社会福祉協議会や自治会等と協働し、高齢者の方の居場所づくりや介護予防の拠点としてコミュニティカフェづくりの取組みを進めており、平成30年度末現在で33カ所開設されています。しかし、新たな開設場所の確保や今後の運営の継続などの課題が残されています。



北村カフェ
コミュニティカフェ開催のお知らせ

1月 JANUARY
日時：1月9日（木）
午前10時～
・保健師さんの健康のお話し（高石市地域包括ケア推進課）
・座ってでもできる体操
銀太鼓

2月 FEBRUARY
日時：2月13日（木）
午前10時～
・保健師さんの健康のお話し（高石市地域包括ケア推進課）
・座ってでもできる体操
ハーモニカとサクソフオン演奏
GGファイブ
メンバーは柏崎正雄様ほか（七区在住）

お正月らしい三味線・太鼓など、みんなで楽しみましょう！

美味しいぜんざいあります。当日召し上がれます♪

場 所：第七区自治会館
参加費：無 料

 問い合わせ先
第七区自治会
北 栄 会

高石市社会福祉協議会
高石市加茂4-1-1 261-3656



第2章 基本目標

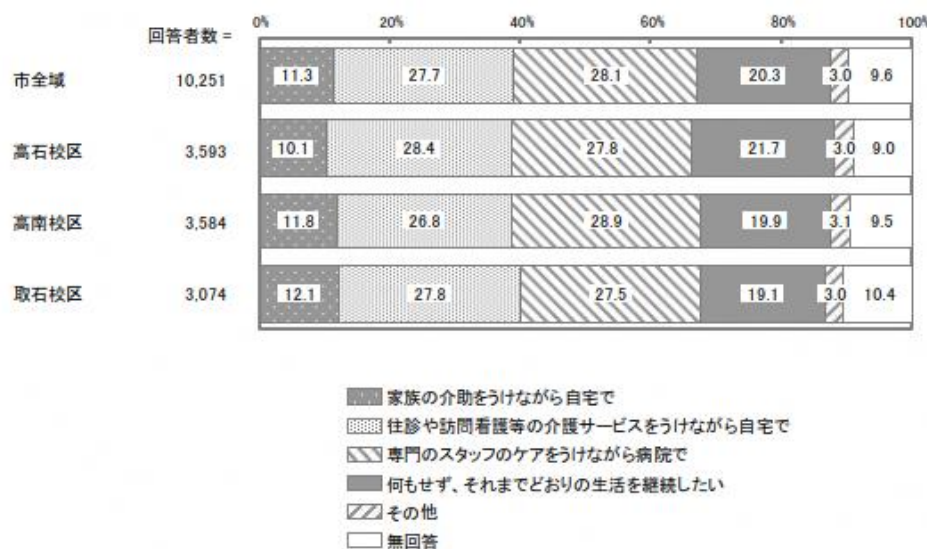


基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ②方針 －

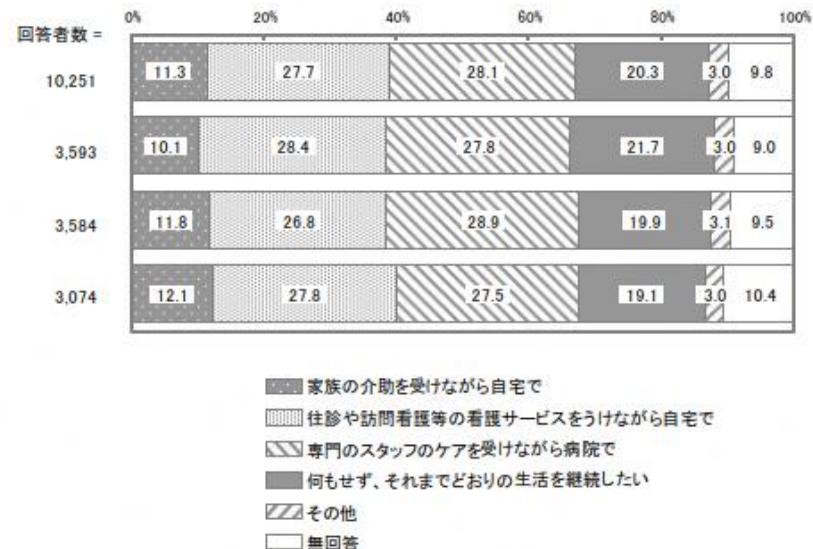
○ いつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるまちづくりを推進する

今後の更なる高齢化の進展に伴い、高齢者が安心して暮らせるよう、在宅医療の提供体制の充実や、在宅医療と介護の連携強化など、医療・介護・介護予防・すまい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケア体制の構築を進めます。

余命宣告をされた場合に希望する療養生活



ターミナルケアについて



出典：第7期介護保険事業計画

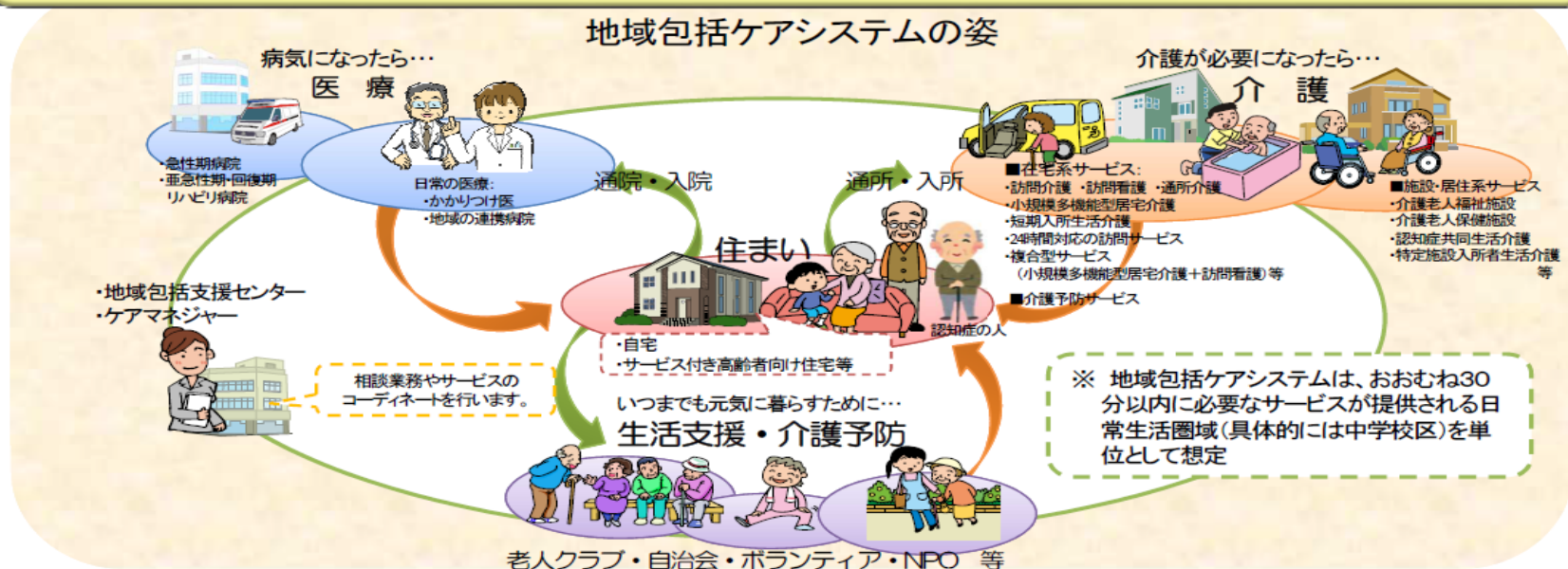
第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ②方針 －

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**です。



出典：厚生労働省ホームページ

第2章 基本目標

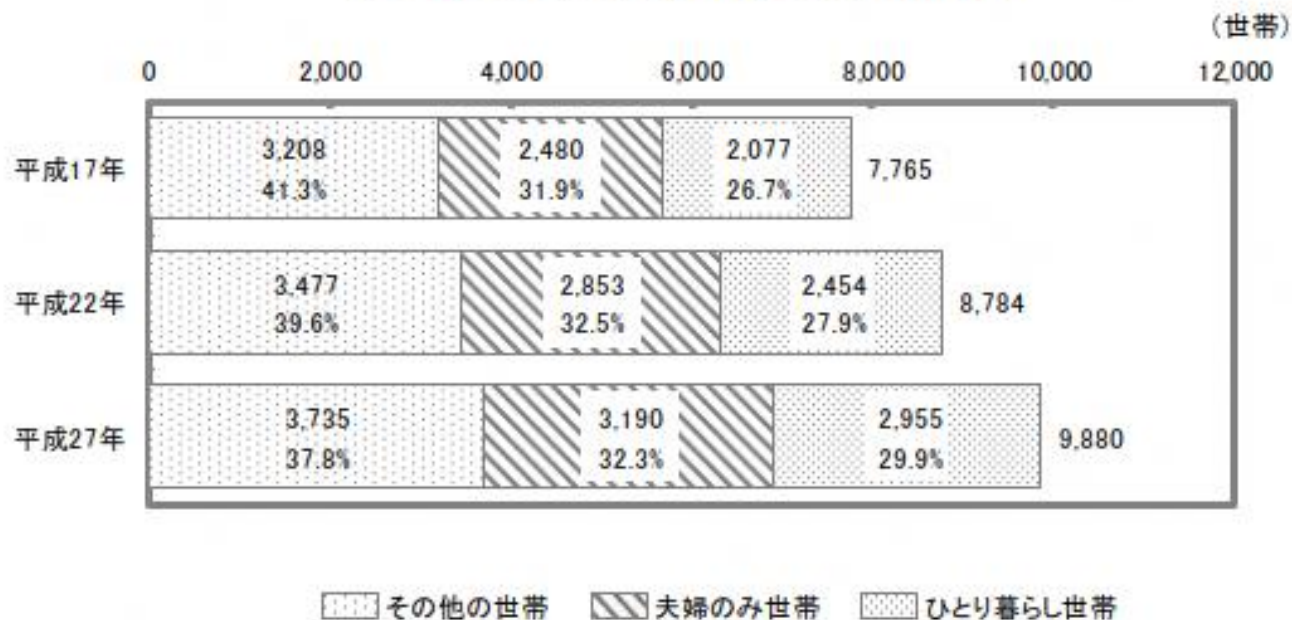


基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ②方針 －

○ 地域コミュニティに参加しやすいまちづくりを推進する

特に退職後の方など地域の高齢者が、気軽に集える居場所となるコミュニティカフェづくりについて、拠点及び運営体制の形成や、近隣大学との連携、市内の退職高齢者のいきがづくりとしての活動の促進を図りつつ、人材の発掘・育成など運営体制の強化などの取組みを進めます。

ひとり暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の推移



出典：第7期介護保険事業計画



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ③数値目標 －

数値目標1：医療・介護連携による連携数
令和6年度：260件



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ④主な施策 －

○ 在宅医療介護連携の推進

地域包括ケアシステムの推進のため、在宅医療・介護連携のルール作りを進めるとともに、その拠点となる「（仮称）在宅医療介護連携支援センター」を創設します。併せて、市民の在宅医療に関する不安や疑問を解消するため、情報発信に取り組み、在宅医療の認知度・安心感の向上を図ることにより、療養生活の選択肢のひとつとして在宅医療を考えられるように、多面的な啓発活動を進めていきます。

KPI：医療・介護連携がうまくいっていると感じている専門職の割合
令和6年度：80%



基本目標（３） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ④主な施策－

○ コミュニティカフェの整備

高齢者が気軽に集える居場所としての機能だけでなく、介護予防や見守り機能を有するコミュニティカフェの整備を進め、市内の退職高齢者の活動の促進を図ってきました。

今後はさらに多世代交流に向け、地域住民の出会いと交流の場や情報発信の拠点としてコミュニティカフェを開設する自治会やNPOなどの福祉団体に開設準備費を補助することで地域住民の誰もが集い、交流できる居場所づくり事業を推進します。

K P I：自治会でのコミュニティカフェの実施件数

平成30年度：33件 ⇒ 令和6年度：51件

【基本目標（３） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）に関連する施策】

- 地域資源のリノベーション（基本目標（２）P26 記載事業）
- 人材バンクの活用（基本目標（２）P31 記載事業）
- 二・三世代同居・近居支援（基本目標（４）P66 記載事業）
- 駅周辺リノベーション活性化事業（基本目標（４）P69 記載事業）

第2章 基本目標



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

- 高石市では、スクールニューディールとして学校耐震化100%、学校のエアコンやICT機器の整備、中学校給食、小学校1年生からの英語教育などを進めてきており、中学校卒業時に英検3級レベル4割以上合格を達成するなど、優れた教育環境が整っています。
- 一方で、全国学力・学習状況調査では、国語や算数など科目によっては大阪府平均を下回っています。



第2章 基本目標



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える — ①現状 —

外国語活動・英語教育の推進

【教育課程特例校】

平成25年度より、高石市立全小学校が文部科学省より教育課程特例校の認定を受け、小学校1年生から外国語活動の授業を実施。

【ALT（外国人英語指導助手）配置事業】

小・中学校において、コミュニケーション能力の育成を図るために、ALTを配置。

【使える英語プロジェクト事業】

全中学校で平成23年度より実施。

事業の効果検証を図り、改善・推進に活かすことを目的として、英語能力判定テストを平成26年度より実施。

英語能力判定テストの結果（中学校3校）

	5級レベル (中学1年)	3級レベル (中学3年)
平成29年度	69.2%	39.5%
平成30年度	74.6%	43.8%





基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

- 高石市域周辺には、公立学校のほか、私立の教育機関もあり、文教都市たかいしとしての環境・特性を持っています。

主な教育機関

- ・ 高石高校
- ・ 羽衣学園
- ・ 清風南海学園
- ・ 羽衣国際大学
- ・ 南海福祉専門学校

等

主な文化施設

- ・ 市立図書館（郷土資料室）
- ・ たかいし市民文化会館
- ・ 高石市コミュニティセンター

等

第2章 基本目標

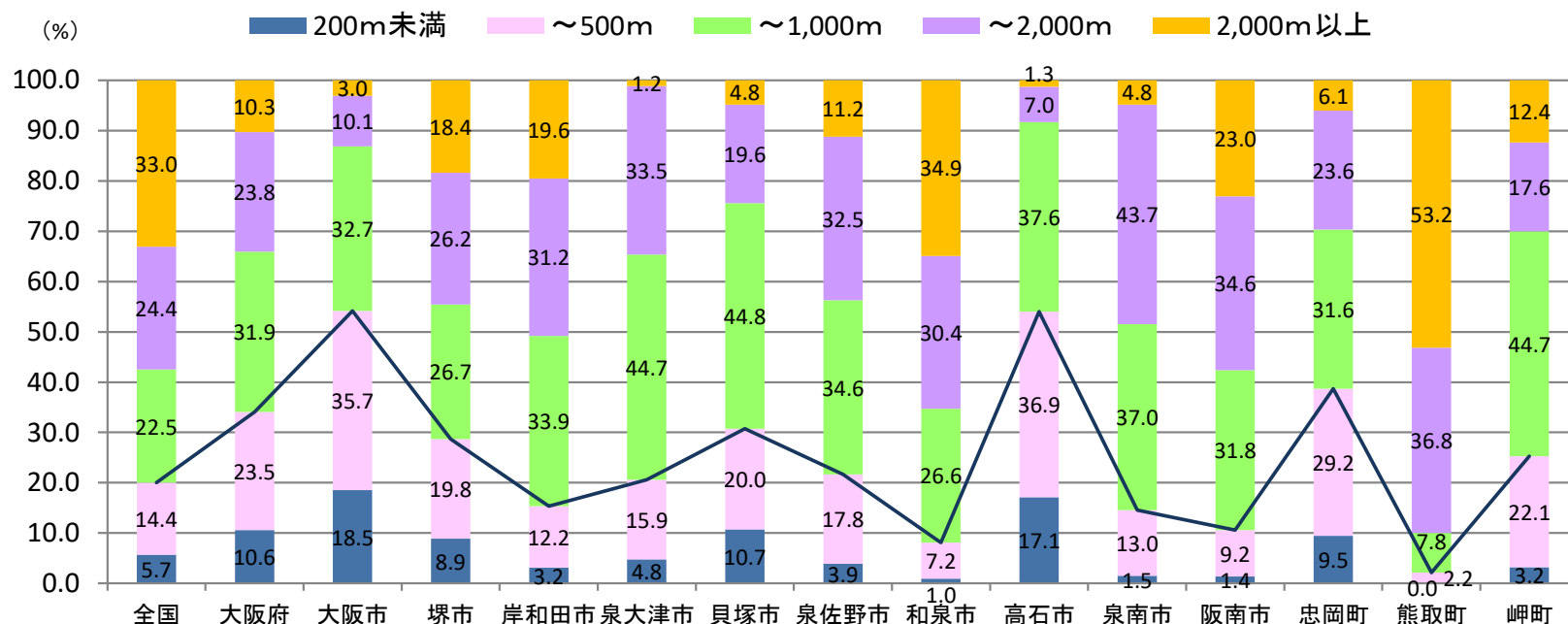


基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

○ 高石市は、コンパクトで平坦な地勢に鉄道駅が6つあるなど、鉄道網や主要幹線道路などの交通インフラが整い、鉄道交通の結節点となっている羽衣駅があるなど、大阪中心部や関西国際空港などへのアクセスが良好な環境となっています。

最寄り駅までの距離（泉州市町比較）

— 500m未満の割合



出典：総務省「住宅・土地統計調査」（平成25年）

第2章 基本目標

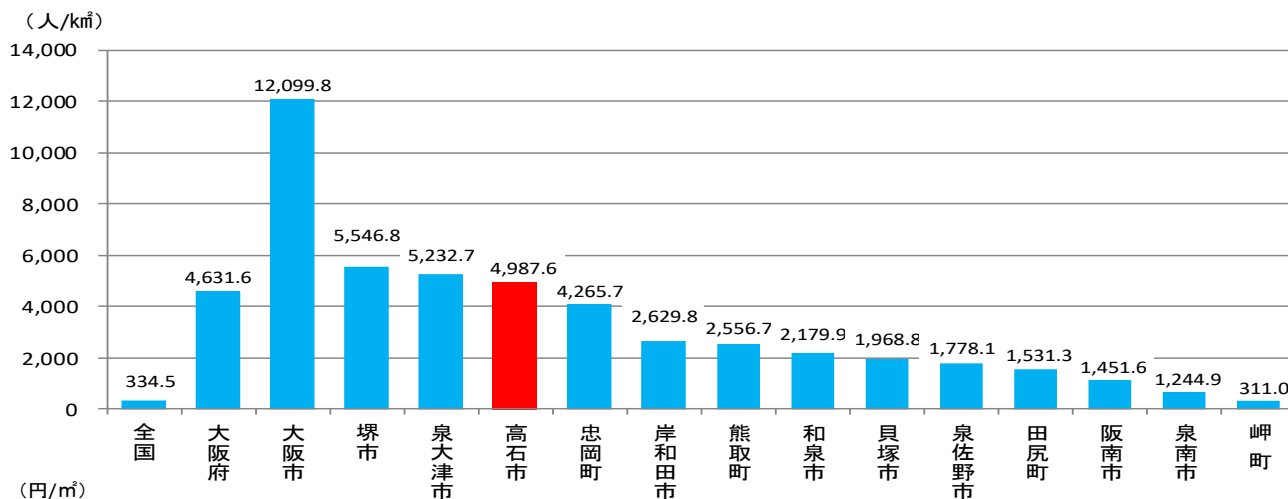


基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

○ 高石市は、利便性の高さなどから、他市と比べても人口密度が高く、地価額などが泉州市町と比較すると高くなっています。

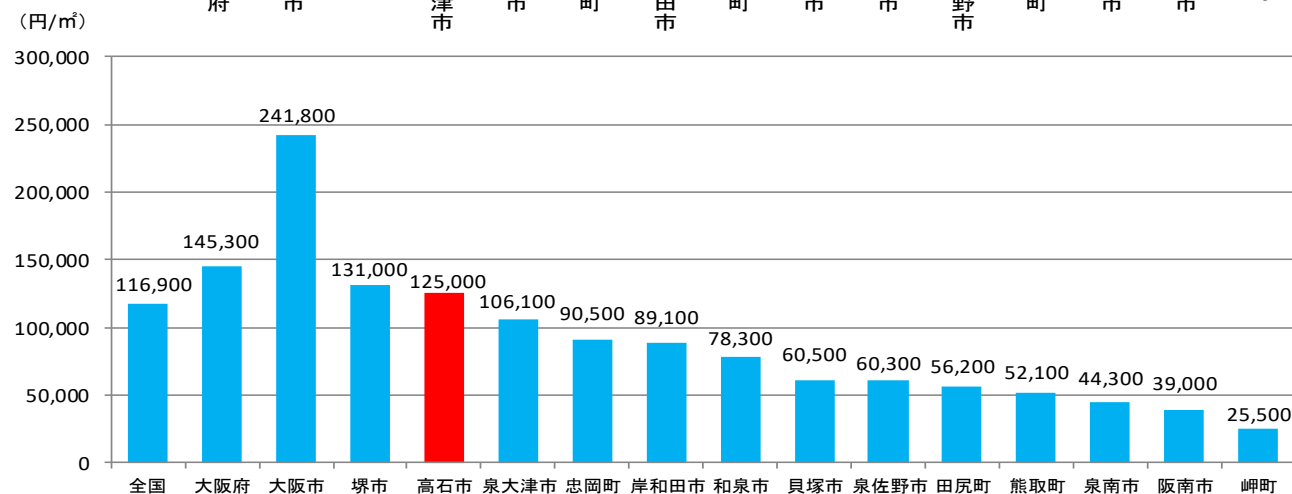
人口密度 （泉州市町比較）

出典：大阪府推計人口、国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（平成30年）をもとに算出



地価額 （泉州市町比較）

出典：国土交通省「公示地価」（平成30年）



第2章 基本目標

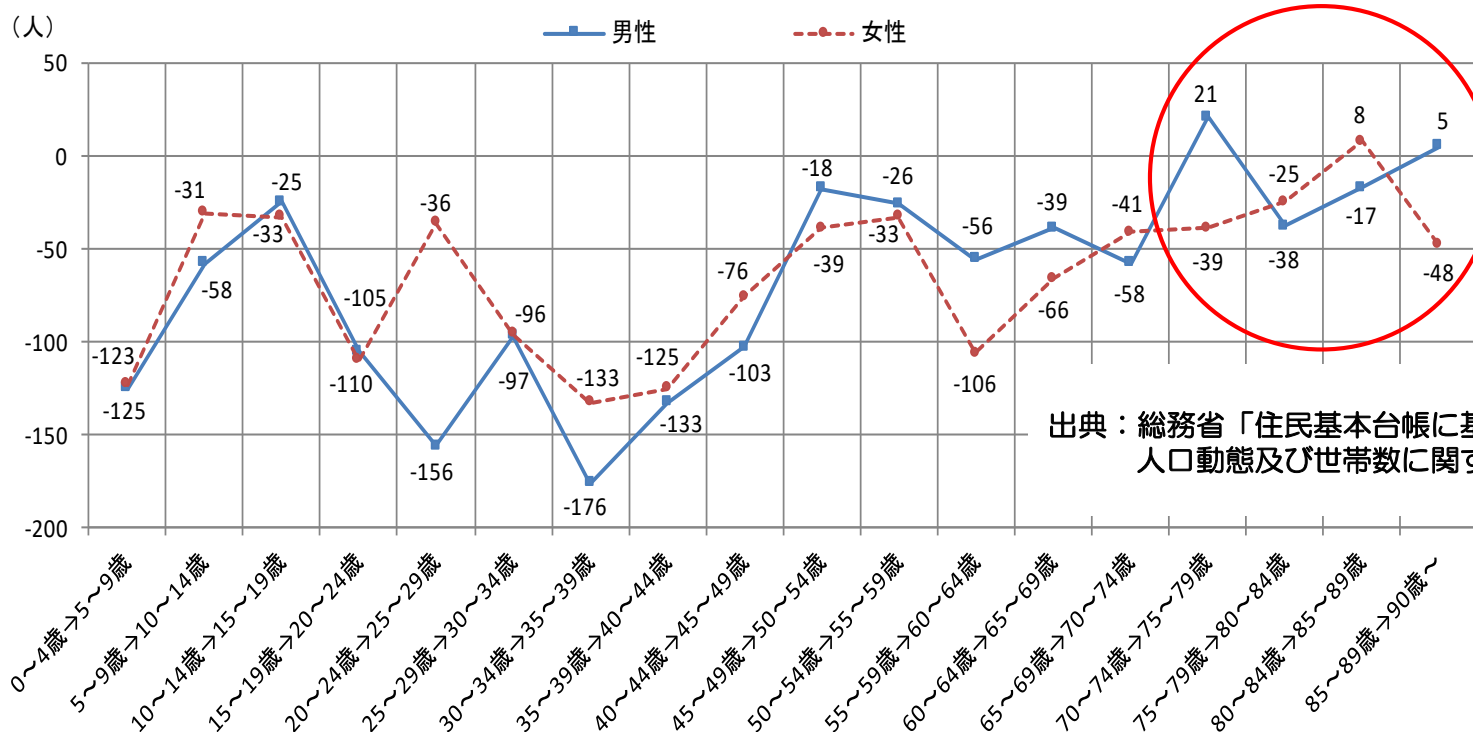


基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

- 子育て世代に転入の傾向があり、さらには、退職後の年代でも転入の傾向がある為、ＵターンやＪターン等の一定の潜在的なニーズがあると考えられます。Ｕターン・Ｊターンの需要を喚起するために、高齢者の転入も視野に入れた環境の整備が必要と考えられます。

性別・年齢階級別純移動数の状況

〔平成22（2010）年～平成27（2015）年〕



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

第2章 基本目標

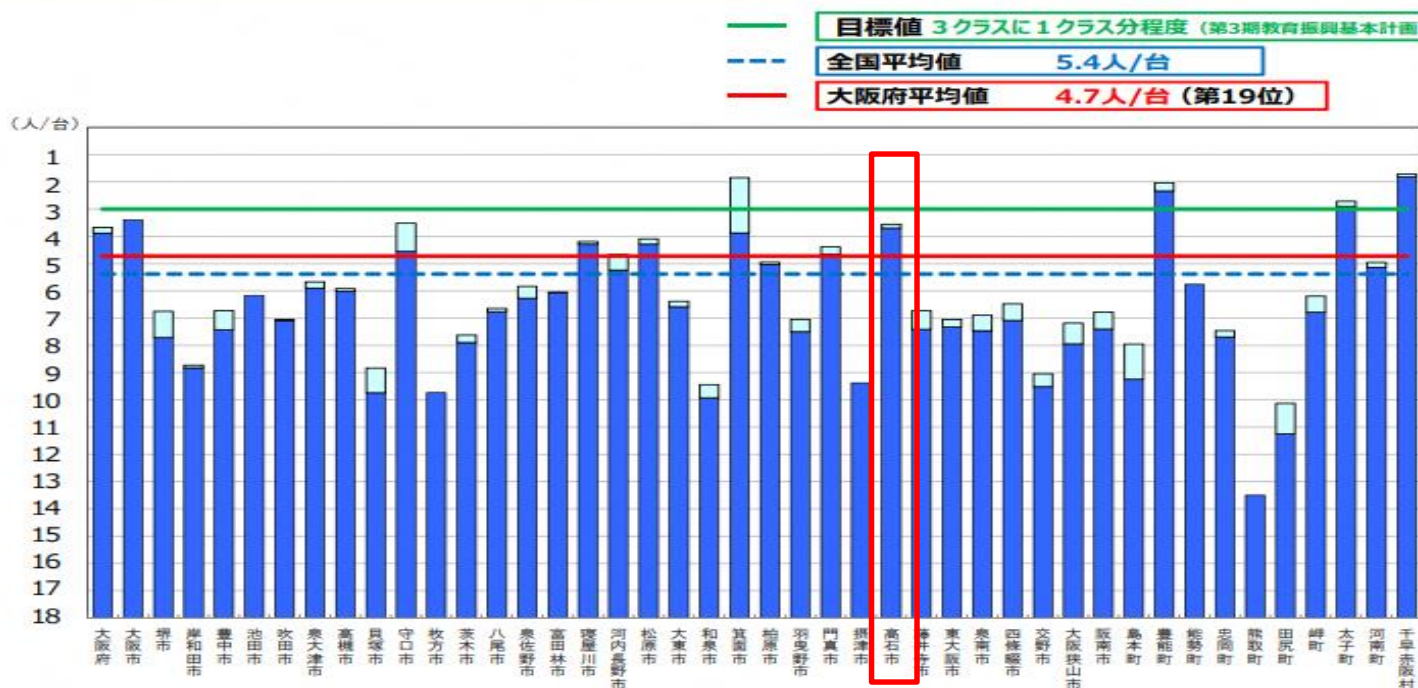


基本目標（4） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

○ 魅力ある教育を推進し、社会で活躍できる人材を育成する

グローバル化する社会に対応できる子どもたちを育成するため、英語教育や教育のICT化の充実を図るとともに、教育水準の向上に向けて取組みます。また、義務教育の充実を図るとともに、高齢者などへの生涯学習の機会の提供など、文教都市としての取組みを進めます。

教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数 [大阪府内自治体]



出典：文部科学省
「学校における教育の
情報化の実態等に関する
調査」
(平成30年度)

※ 第3期教育振興基本計画(2018～2022年度)における目標値(「学習者用コンピュータ3クラスに1クラス分程度」【授業展開に応じて必要な時に「1人1台環境」を可能とする環境の実現】(1日1コマ分程度を当面の目安))。



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

○ 文教都市を始めとした魅力あるまちのPRを進める

高石市が、利便性の高い文教都市としての魅力のあるまちとして、広く認知されていくよう、子育て世代をターゲットの中心とした、ホームページなど情報発信手段の充実や、イベントでの効果的なPR、子育て支援施策と連携した移住・定住支援など、さらなる情報発信に取り組みます。さらに、関西国際空港を拠点としてインバウンド観光客も意識したブランド戦略を推進するなど広域的な取り組みを進めます。

羽衣国際大学



堺泉北臨海工業地帯の工場夜景



第2章 基本目標

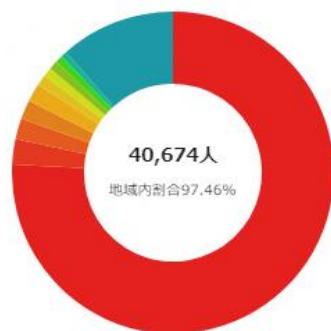


基本目標（4） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

滞在人口の推移

休日の滞在人口数（令和元年）

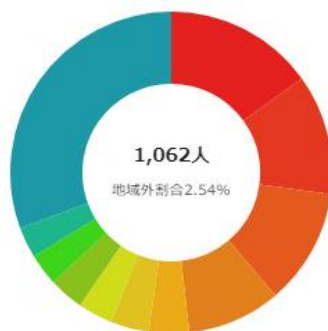
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 大阪府高石市 30,836人(75.81%)
- 2位 大阪府堺市西区 1,043人(2.56%)
- 3位 大阪府岸和田市 844人(2.08%)
- 4位 大阪府和泉市 778人(1.91%)
- 5位 大阪府泉大津市 756人(1.86%)
- 6位 大阪府堺市堺区 446人(1.10%)
- 7位 大阪府堺市中区 362人(0.89%)
- 8位 大阪府堺市南区 361人(0.89%)
- 9位 大阪府堺市北区 299人(0.74%)
- 10位 大阪府泉佐野市 241人(0.59%)
- その他 4,708人(11.57%)

滞在人口 / 都道府県外

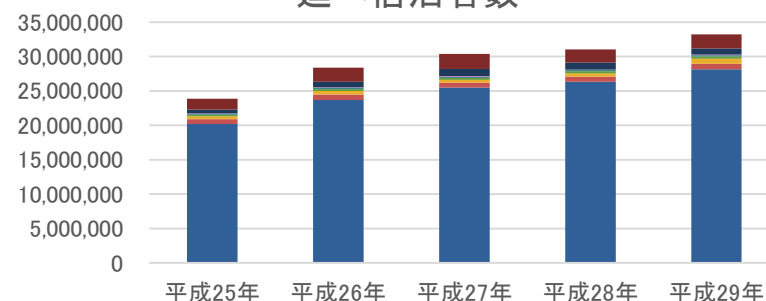


滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 和歌山県和歌山市 160人(15.07%)
- 2位 兵庫県西宮市 128人(12.05%)
- 3位 兵庫県尼崎市 124人(11.68%)
- 4位 兵庫県伊丹市 100人(9.42%)
- 5位 兵庫県明石市 43人(4.05%)
- 6位 兵庫県神戸市灘区 41人(3.86%)
- 7位 兵庫県川西市 37人(3.48%)
- 8位 兵庫県神戸市中央区 37人(3.48%)
- 9位 兵庫県宝塚市 34人(3.20%)
- 10位 兵庫県洲本市 33人(3.11%)
- その他 325人(30.60%)

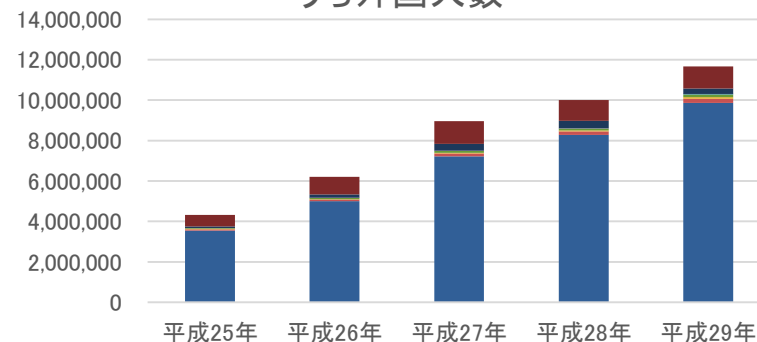
大阪の延べ宿泊者数・外国人延べ宿泊者数

延べ宿泊者数



大阪市域 三島地域 豊能地域 北河内地域
中河内地域 南河内地域 堺市域 泉州地域

うち外国人数



大阪市域 三島地域 豊能地域 北河内地域
中河内地域 南河内地域 堺市域 泉州地域

出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」
※滞在人口とは、市区町村単位で滞在時間が2時間以上の人口

出典：宿泊旅行統計調査（平成25から29年）



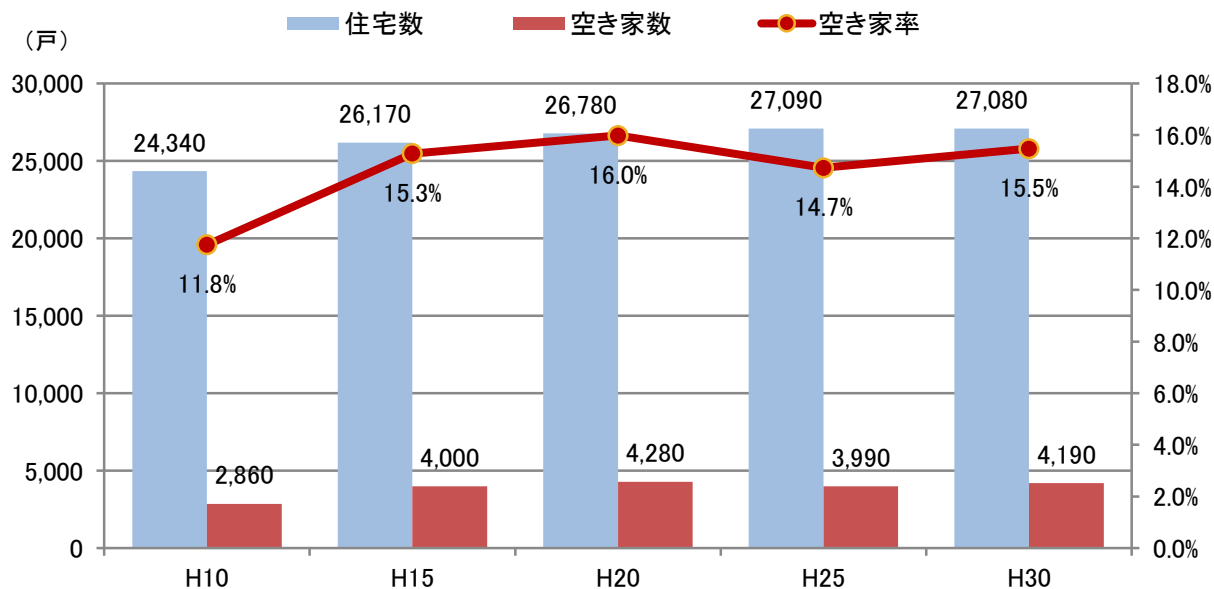
基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

○ 住みたい人が住んでもらえる環境をつくる

高石市は、他市と比べても人口密度が高いことを踏まえ、空き家の利活用に関する取り組みを進め、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを行っていきます。特に令和3年の南海本線高架化により東西が繋がる高石駅周辺エリアは、多世代交流により生活を豊かにするまちの拠点として一体的な整備を進めます。また、二・三世帯同居近居支援など住宅支援制度や、不動産情報を効果的に提供するなど、移住・定住のニーズを充足するための支援を継続していきます。

空き家の推移

出典：総務省
「住宅・土地統計調査」



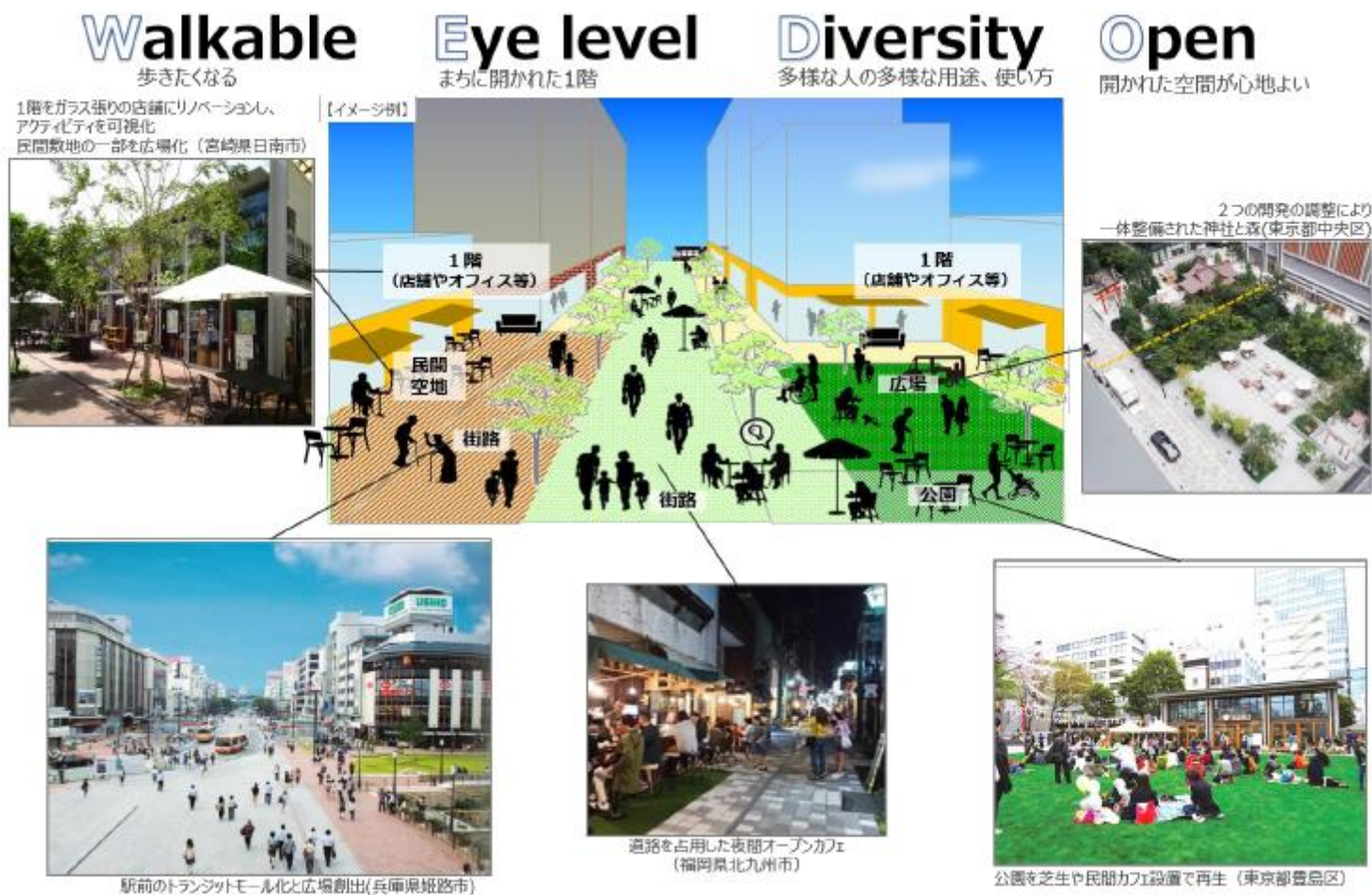
第2章 基本目標



基本目標（4） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

居心地が良く歩きたくなるまちのイメージ

出典：国土交通省「ウォーカブル推進都市」





基本目標（4） 人が集い、住みたくなる環境を整える — ③数値目標 —

数値目標 1：20歳から39歳までの転入者数

平成30年度：1,153人 ⇒ 令和6年度：1,250人

※住民基本台帳人口移動報告

数値目標 2：60歳以上の転入者数

平成30年度：203人 ⇒ 令和6年度：250人

※住民基本台帳人口移動報告



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 学力向上に向けた学びの推進

1人1台タブレット端末及び高速大容量の通信ネットワークの整備を進め、主体的・対話的で深い学びの核となる学びあいや個別学習を、ICTを活用した新しい授業スタイルにより構築し、学力の向上をめざします。

KPI：全国学力・学習状況調査の点数

令和6年度までに全国平均を上回る

全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査のうち、「授業の内容が良くわかる」と回答した割合

令和6年度：85%

全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査のうち、「これまでに受けた授業で、コンピューターなどのICTをほぼ毎日使用した」の回答の割合

令和6年度：80%

タブレットを活用した授業時数

小学校 令和6年度：週15時間/クラスごと

中学校 令和6年度：週15時間/クラスごと

〔※ICT（Information and Communication Technology）：情報通信技術のこと。〕



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 英語教育の推進

教育課程特例校の指定を受け、使える英語プロジェクト事業など独自の英語教育を展開してきた実績を生かし、今後、ますますグローバル化が進んでいく社会で活躍できる人材の育成を図ります。

K P I：英語能力判定テスト３級レベル（中学３年生）の合格者数割合
平成30年度：43.8% ⇒ 令和6年度：55.0%



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 地域活性化ブランド戦略による魅力の発信・発掘の強化

市の地域活性化ブランド戦略として、シーサイドフェスティバルや工場夜景等をホームページやSNS等を通じて市の魅力を発信し、幅広い世代にPRを図ります。

K P I：高石シーサイドフェスティバルの来場者数

令和6年度：41,500人

高石市ホームページ閲覧数（年間総ページ閲覧数）

令和6年度：2,206,000件

※SNS（Social Networking Service）：インターネットを介して人間関係を構築できるスマホ・パソコン用のWebサービスの総称。

○ 関西国際空港を拠点とした広域的なPRの取組みの推進

関西国際空港を拠点とした泉州9市4町による広域的な取組みとして、一般社団法人K I X泉州ツーリズムビューローに参画し、インバウンド観光客も意識したPR等を進めるとともに、交流人口の増加を図ります。

※一般社団法人K I X泉州ツーリズムビューロー：泉州9市4町が中心となり、官民一体となって、地域の観光産業の成長を図ために設立された一般社団法人。

K P I：市内宿泊者数

平成30年度：53,613人 ⇒ 令和6年度：96,000人 ※延べ人数



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 海辺の地域活性化事業

旧市民会館・図書館だけでなく浜寺水路周辺エリア一帯として活用し、賑わいと雇用を創出します。

K P I : 事業の内容が固まり次第設定



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 空き家バンク制度の利用促進

市内の空き家を有効活用し地域の活性化を図るため、平成27年度に創設した空き家バンク制度の利用促進を図ります。あわせて、空き家への入居者に対する転居等の費用や空き家改修費用の補助を行います。

K P I：空き家バンクでの契約成立件数

令和2年度から令和6年度まで：各年度20件

○ 二・三世代同居近居支援

住宅の新設又は購入に関して、二・三世代家族の形成を促進し、高齢者の孤立を防ぐ観点から、固定資産税の軽減措置を行います。

K P I：固定資産税の軽減措置制度利用件数

令和2年度から令和6年度まで：各年度70件



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 子育て世帯への住宅支援

住宅の新設又は購入に関して、子育て世帯の定住促進を図る観点から、固定資産税の軽減措置を行います。

K P I：固定資産税の軽減措置制度利用件数

令和2年度から令和6年度まで：各年度120件

○ 市内企業従業者への住宅支援

住宅の新設又は購入に関して、在勤者の職住近接を支援する観点から、固定資産税の軽減措置を行います。

K P I：固定資産税の軽減措置制度利用件数

令和2年度から令和6年度まで：各年度30件



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 安全・安心なまちづくりの推進

① 交通安全対策の推進

鉄道の高架化や南海中央線の整備、交通安全施設の設置等により、渋滞緩和や交通安全の充実を図ります。

KPI：自転車用ヘルメット購入補助数

補助数精査中により決定次第KPIを設定

交通安全講習の参加者数

令和2年度から令和6年度まで：各年度3,000人

交通安全施設（自転車レーン）の延伸距離

令和6年度：550m ※令和2年度から令和6年度までの累積

② 防災・減災対策の推進

防災・減災対策として、津波浸水区域内外など地域の特性に応じた訓練を継続し、さらに多種多様な訓練の実施、推奨、支援を進めます。

KPI：多様な災害や場面に応じた新たな訓練の種類

令和6年度：12種類



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

③ 防犯対策の推進

警察や防犯協会との連携により、地域防犯力の充実を図ります。

K P I : I C タグの小学生所持率

平成30年度：76 % ⇒ 令和6年度：100%

○ 駅周辺リノベーション活性化事業

令和3年の南海本線高架化により商業圏が繋がる高石駅周辺エリアを、官民連携の「（仮称）えきまち連携会議」を立ち上げて駅周辺エリアを一体的に整備するとともに、多世代が交流し生活が豊かになるまちの拠点として活性化を図っていきます。

K P I : 事業の内容が固まり次第設定



基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

【基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整えるに関連する施策】

- 妊娠・出産から子育て期における切れ目ない支援の充実（基本目標（１）P16 記載事業）
- 結婚のための出会いの機会創出（基本目標（１）P16 記載事業）
- 子育てウェルカムステーション「HUGOOD（ハグッド）」の更なる活用（基本目標（１）P17 記載事業）
- 放課後児童健全育成事業の充実（基本目標（１）P18 記載事業）
- 地域資源のリノベーション（基本目標（２）P26 記載事業）